

---

埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第118集

# 下郷遺跡Ⅲ

— 北通り線建設工事に伴う発掘調査Ⅲ —

---

2010.3

深谷市教育委員会



---

埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第118集

しも ごう い せき  
下 郷 遺 跡 III

—北通り線建設工事に伴う発掘調査III—

---

2010.3

深谷市教育委員会



卷頭図版 1



第6次調査伊丹1区



第6次調査伊丹1区1号竪穴建物跡

## 卷頭図版 2



第6次調査伊丹1区1号道路跡（1）



第6次調査伊丹1区1号道路跡（2）

卷頭図版 3



第6次調査北下郷1区7~9号溝



第6次調査北下郷1区8・9号溝

卷頭図版 4



第6次調査北下郷1区1号道路跡



調査区から北東を望む

## 序

幡羅遺跡（幡羅郡役所跡）からは、大規模な掘立柱建物跡や礎石建物跡、掘立柱塀跡などが多数確認され、郡役所を構成する建物群として注目されています。また、郡役所の周辺には、竪穴建物跡など数多くの遺構が広大な範囲に広がっており、下郷遺跡として調査を行なっています。この遺跡は、郡役所に関わった人々の活動の痕跡であり、密集した遺構群や文字資料を含む多くの遺物からは、郡役所そのものの実態もが浮かび上がります。

今回の調査報告書は、北通り線建設に伴う下郷遺跡第6次発掘調査の一部と第14次発掘調査の成果についてまとめたものです。この成果を広く市民の皆様にご紹介することで、日本の歴史の中に息づく地域の歴史や文化について、ご理解を深めていただきたいと存じます。また、この報告書が学術研究はもとより、学校、社会教育などの生涯学習活動を通じて、皆様が歴史を考えるための資料として役立てば、望外の喜びです。

今回の発掘調査および報告書作成にあたり、深いご理解とご協力をいたしました関係者の皆様に、心から感謝を申し上げまして序にかえます。

平成22年3月

深谷市教育委員会

教育長職務代理者

教育次長 石田文雄



## 例　　言

1. 本書は、埼玉県深谷市東方字伊丹 2807、字北下郷 2736 における都市計画道路「北通り線」の建設工事に伴う下郷遺跡発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、深谷市教育委員会が主体となり、調査費用については深谷市が負担した。
3. 今回報告するのは、平成 17 年度に行った第 6 次調査の一部と、平成 21 年度に行った第 14 次調査についてである。発掘調査期間は、第 6 次調査が平成 17 年 8 月 11 日～平成 18 年 2 月 28 日、第 14 次調査が平成 21 年 12 月 15 日～12 月 18 日である。
4. 第 6 次発掘調査は青木克尚の管理のもと、永井智教（現鳩山町教育委員会）が担当した。整理作業は永井・知久裕昭が担当し、報告書の執筆は知久が行なった。
5. 第 14 次発掘調査及び出土遺物の整理、報告書の執筆は知久裕昭が担当した。
6. 第 6 次調査の基準点測量及び遺構測量、遺物実測の一部は、技研測量設計株式会社に委託した。また、第 14 次調査の基準点測量及び遺構測量は、株式会社東京航業研究所に委託した。
7. 出土遺物は、深谷市教育委員会が保管している。
8. 発掘調査から報告書作成に至るまで、次の諸氏のご指導・ご協力を賜った。記して謝意を表したい。

文化庁 埼玉県生涯学習文化財課

赤熊浩一	浅野晴樹	新井 端	荒井秀規	板橋正幸	出浦 崇	出縄康行
井上尚明	今井 宏	江口 桂	大橋泰夫	大谷 徹	河合英夫	書上元博
金子正之	神谷佳明	川口武彦	川原秀夫	木戸春夫	木下 良	木本雅康
栗岡真理子	古池晋禄	河野喜映	小林 高	小宮 豪	小宮俊久	齋藤直美
齋藤欣延	酒井清治	坂井秀弥	坂爪久純	坂本和俊	酒寄雅志	佐藤康二
佐藤 信	寺社下博	篠原英政	末木啓介	菅谷浩之	鈴木靖民	須田 勉
田尾誠敏	高島英之	高橋一夫	竹野谷俊夫	田中広明	田中弘志	辻 史郎
富田和夫	鳥羽政之	中島広顕	中島 宏	中村太一	禰宜田佳男	根本 靖
原 京子	坂野和信	平野 修	昼間孝志	深谷 昇	藤木 海	前澤和之
松田 哲	松本太郎	水口由紀子	宮瀧交二	村木志伸	村田晃一	室伏 徹
山路直充	山中敏史	吉野 健	渡辺 一	(敬称略)		

## 凡　例

1. 図面中的方位は、全て国家方眼座標の北を表示している。
2. 遺物の実測図は、須恵器の断面を黒塗りで表現した。また、軸のかかる範囲や赤彩部分については、適宜スクリーントーンで表した。
3. 遺物観察表の記載は、以下の通りである。
  - ・計測値の単位はcmである。
  - ・器径、器高で（）を付したものは推定値である。
  - ・種別は土師器をH、須恵器をS、ロクロ土師器をR、灰釉陶器をKとした。
  - ・胎土は、肉眼で確認できた範囲での含有物を、以下のアルファベットで表した。  
A…白色粒子、B…赤色粒子、C…黒色粒子、D…石英、E…角閃石、F…片岩  
G…白色針状物質、H…砂礫、I…雲母
4. 遺構の略号は、次の通りである。  
竪穴建物跡…S J、建物跡…S B、堀跡…S A、溝…S D、土坑…S K
5. 遺構・遺物実測図の縮尺は、適宜スケールで示した。
6. 土層説明中の色調については、『新版標準土色帖』によった。

## 発掘調査の組織

第6次発掘調査（平成17年度）

調査主体者 深谷市教育委員会	教育長 青木 秀夫
	教育次長 古川 国康
	次 長 大澤 芳正
事務局 深谷市教育委員会生涯学習課 課 長 山口 清	
	主幹兼課長補佐 澤出 晃越
	課長補佐 猪野塚 昇
	原 常博
	文化財保護係長 青木 克尚
	主 任 畑元 直大
	荻野 直美
	知久 裕昭
	臨時職員 永井 智教

第14次発掘調査・報告書刊行（平成21年度）

調査主体者 深谷市教育委員会	教育長 猪野 幸男（～2月）
	教育次長 石田 文雄
	（2月から教育長職務代理者）
	次 長 島崎 保
事務局 深谷市教育委員会生涯学習課 課 長 澤出 晃越	
	課長補佐 吉場 厚仁
	須藤 忠昭
	文化財保護係長 村松 篤
	主 査 宮本 直樹
	主 任 荻野 直美
	知久 裕昭
	主 事 幾島 審
	主 事 補 飯島 峻輔



# 目 次

序

例言

凡例

発掘調査の組織

I	発掘調査の経過	1
1	発掘調査に至る経過	1
2	発掘調査の経過	1
II	深谷市の地理的環境と周辺遺跡の様相	2
III	遺構と遺物	14
1	概要	14
2	第6次調査伊丹1区	14
a	竪穴建物跡	14
b	溝	14
c	道路跡	23
d	土坑	25
3	第6次調査北下郷1区	33
a	縄文時代の遺物	33
b	溝	33
c	道路跡	42
4	第14次調査区	44
IV	調査のまとめ	45

報告書抄録

## 挿 図 目 次

第1図 埼玉県の地形図	2
第2図 下郷遺跡及び周辺の遺跡分布図	4
第3図 蟠羅・下郷遺跡の範囲と周辺遺跡	5
第4図 蟠羅・下郷遺跡全体測量図	6
第5図 下郷遺跡第6・14次調査区全体測量図 (1)	7
第6図 下郷遺跡第6・14次調査区全体測量図 (2)	9
第7図 下郷遺跡第6・14次調査区全体測量図 (3)	10
第8図 下郷遺跡第6・14次調査区全体測量図 (4)	11
第9図 下郷遺跡第6・14次調査区全体測量図 (5)	12
第10図 下郷遺跡第6・14次調査区全体測量図 (6)	13
第11図 第1号堅穴建物跡	15
第12図 第1号堅穴建物跡出土遺物	16
第13図 第2号堅穴建物跡	17
第14図 第2号堅穴建物跡掘方	18
第15図 第2号堅穴建物跡出土遺物	19
第16図 第1・2号溝	20
第17図 第1・2号溝土層断面	21
第18図 第1号溝出土遺物	21
第19図 第3号溝	22
第20図 第3・4号溝出土遺物	22
第21図 第3号溝土層断面	23
第22図 第4～6号溝	24
第23図 第4～6号溝遺物出土状況	25
第24図 第5号溝出土遺物(1)	26
第25図 第5号溝出土遺物(2)	27
第26図 第1号道路跡	30
第27図 第1号道路跡出土遺物	30
第28図 第1号道路跡土層断面	31
第29図 土坑実測図	32
第30図 縄文時代の遺物	33
第31図 第1～5号溝	34
第32図 第6号溝	35
第33図 第7号溝	36
第34図 第8号溝	37
第35図 第8号溝土層断面	38
第36図 第9号溝	39
第37図 第10～12号溝	40
第38図 第8号溝出土遺物	41
第39図 第9号溝出土遺物	42
第40図 第12号溝出土遺物	42
第41図 第14次調査区	43
第42図 第1～4号溝断面	44
第43図 第14次調査区出土遺物	44
第44図 古代の道路跡と区画溝	46

## 表 目 次

第1表 下郷遺跡及び周辺の遺跡一覧表	4	第7表 第5号溝出土遺物觀察表（1）	28
第2表 第1号堅穴建物跡出土遺物觀察表	16	第8表 第5号溝出土遺物觀察表（2）	29
第3表 第2号堅穴建物跡出土遺物觀察表	18	第9表 第1号道路跡出土遺物觀察表	31
第4表 第1号溝出土遺物觀察表（1）	18	第10表 第8号溝出土遺物觀察表	41
第5表 第1号溝出土遺物觀察表（2）	19	第11表 第9号溝出土遺物觀察表	42
第6表 第3・4号溝出土遺物觀察表	23	第12表 第12号溝出土遺物觀察表	42
		第13表 第14次調査区出土遺物	44

## 図版目次

- 卷頭図版1 第6次調査伊丹1区 第6次調査伊丹1区1号竪穴建物跡  
卷頭図版2 第6次調査伊丹1区1号道路跡（1） 第6次調査伊丹1区1号道路跡（2）  
卷頭図版3 第6次調査北下郷1区7～9号溝 第6次調査北下郷1区8・9号溝  
卷頭図版4 第6次調査北下郷1区1号道路跡 調査区から北東を望む  
図版1 伊丹1区 伊丹1区第1号竪穴建物跡 伊丹1区第1号竪穴建物跡遺物出土状況（1）  
伊丹1区第1号竪穴建物跡遺物出土状況（2） 伊丹1区第1号竪穴建物跡土層断面  
伊丹1区第2号竪穴建物跡 伊丹1区第2号竪穴建物跡遺物出土状況（1）  
伊丹1区第1号竪穴建物跡遺物出土状況（2）  
図版2 伊丹1区第1・2号溝 伊丹1区第1号溝土層断面 伊丹1区第2号溝 伊丹1区第3号溝  
伊丹1区第1号道路跡 伊丹1区第1号道路跡波板状痕跡（1） 伊丹1区第1号道路跡波板状痕跡（2）  
図版3 伊丹1区第4～6号溝 伊丹1区第4・5号溝遺物出土状況 伊丹1区第5号溝遺物出土状況  
北下郷1区第8・9号溝（1） 北下郷1区第8・9号溝（2） 北下郷1区第8号溝遺物出土状況  
北下郷1区第1号道路跡 第14次調査区  
図版4 伊丹S J 1-1 伊丹S J 1-4 伊丹S J 1-5 伊丹S J 1出土遺物 伊丹S J 2-5  
伊丹S J 2出土遺物 伊丹S J 2-11 伊丹S J 2-10・12  
図版5 伊丹S D 1出土遺物 伊丹S D 3・4出土遺物 伊丹S D 5出土遺物（1） 伊丹S D 5出土遺物（2）  
伊丹S F 1出土遺物 繩文土器 有茎尖頭器 北下郷S D 8-6 北下郷S D 8-7  
図版6 北下郷S D 8出土遺物 北下郷S D 8-8・9 北下郷S D 9-1 北下郷S D 9-2  
北下郷S D 12-1 第14次調査区出土遺物

# I 発掘調査の経過

## 1 発掘調査に至る経過

深谷市は、埼玉県北部に位置し、北を群馬県との境に接する。平成18年1月1日に旧岡部町、旧川本町、旧花園町と合併し、総面積137.58km<sup>2</sup>、人口約146,500人となった。当地は農業、工業とともに盛んで、古くから深谷ネギの産地としても有名である。歴史的に見て、も、後期旧石器、縄文、弥生時代、古墳時代を始め、幡羅郡家や榛沢郡家が造られそれぞれ郡の中心として機能していた奈良～平安時代、また百濟木遺跡で都領クラスの豪族が居宅を営んだ奈良時代、深谷上杉氏の拠点であった室町・戦国時代、宿場町として栄えた江戸時代、そして近・現代まで多くの遺跡、文化財が残され、非常に重要な土地であったことが窺える。鎌倉時代の有力御家人であった畠山重忠の本拠地として、或いは近代日本経済界を築いた渋沢栄一の生地としても良く知られる。

下郷遺跡は、JR深谷駅より東へ約4km、櫛挽台地先端部に立地する。標高は35m前後で、面積は約100万m<sup>2</sup>と広大な範囲に及ぶ。遺跡は東側が熊谷市との境に接しており、熊谷市側には西別府祭祀遺跡や西別府廃寺跡が存在する。いずれの遺跡も、古代幡羅郡家跡である幡羅遺跡と関連するものである。下郷遺跡は、幡羅郡家成立前の古墳群及び郡家と併存する周辺集落と位置付けられる。また近年、中世の遺構も多く確認されており、郡家廃絶後から東方城成立までの資料が確認されることも期待される。そのため、深谷市教育委員会では、下郷遺跡の周辺を重要な埋蔵文化財包蔵地であると位置付け、事前調査等を行なっている。

下郷遺跡を横断する形で、都市計画道路「北通り線」の建設が計画され、道路予定地における最初の発掘調査（第6次調査）を、平成17年度に行なうことになった。市教育委員会は、文化財保護法第99条の規定に基づき、埋蔵文化財発掘調査通知（平成18年2月15日付

深教生発第108号）を提出した。

また第14次調査は、現道舗装下の調査で、平成21年に計画された。市教育委員会は、文化財保護法第99条の規定に基づき、埋蔵文化財発掘調査通知（平成21年12月16日付深教生発第756号）を提出し、準備に入った。

## 2 発掘調査の経過

第6次調査は、平成17年8月11日より開始した。調査面積は約2000m<sup>2</sup>で、現道を挟んで西側を伊丹1区、東側を北下郷1区とした。伊丹1区から確認された主な遺構は、竪穴建物跡2棟、溝6条（内1条は道路側溝）、道路跡1条、土坑9基である。また、北下郷1区から確認された主な遺構は、竪穴建物跡25棟、掘立柱建物跡6棟、溝12条（内2条は道路側溝）、道路跡1条、土坑49基である。北下郷1区西部で、路面幅約8mの斜行する大規模な道路跡が確認された。その近辺には竪穴建物跡が存在しないことが特徴的で、それより北東に当たる幡羅遺跡第21次調査区では、道路跡と竪穴建物跡が多く切り合っていたと対照的である。また伊丹1区では、それと方位の異なる道路跡が確認された。これは古代の遺構を切っており、中世のものと推定される。調査は伊丹1区から着手し、北下郷1区へと漸進した。北下郷1区東部は特に遺構が濃密で、6×3間の大型掘立柱建物跡も確認された。遺構の全体をほぼ完掘した後、竪穴建物跡の掘方の調査に入った。多くの竪穴建物跡に数多くの床下土坑が認められ、調査は難航したが、2月中旬に完掘した。

第14次調査は、東西に分かれた第6次調査区の間にある現道部分を調査したものである。現道の舗装をはがした後、平成21年12月15日に調査を開始した。溝4条が確認された。16日には遺構を完掘、17日に測量を実施し、その後埋め戻しを行なった。

## II 深谷市の地理的環境と周辺遺跡の様相

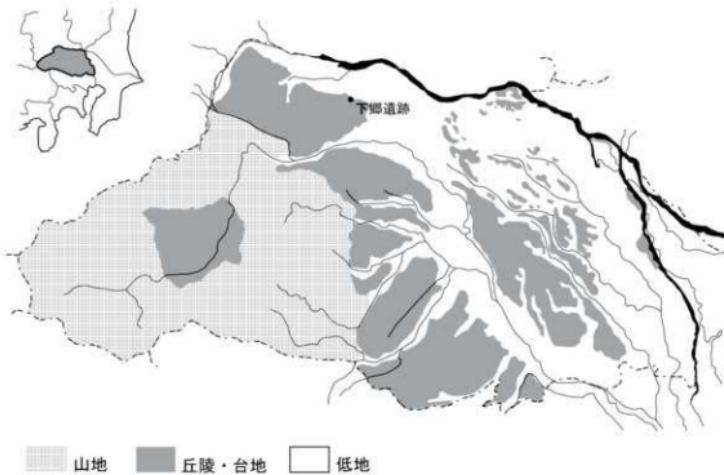
深谷市の地形を概観すると、東西に走るJR高崎線付近を境として、南側に櫛挽台地が広がり、北側には妻沼低地が形成されている。櫛挽台地は、荒川によって作られた古い扇状地が浸食されてできた沖積台地で、寄居付近を頂部としている。妻沼低地は、利根川の自然堤防及び沖積低地であり、加須低地と並び利根川の中流低地の一つに数えられる。

櫛挽台地は、構造的には北西側の武藏野面に比定される櫛挽面（櫛挽段丘）と、南東側の立川面に比定される寄居面（御稲威ヶ原段丘）とで段丘状に形成されている。櫛挽面は、ほぼJR高崎線沿いの崖線で比高差5～10mをもって妻沼低地と接しているが、寄居面は高崎線より北へ1.5～1.8km程延びていて、比高差2～5mをもって妻沼低地と接している。接線付近での標高は、櫛挽面が40～50m、寄居面が32～36m、妻沼低地が30～31mである。櫛挽面は標高70m付近より発する上唐沢川、押切川、戸田川、唐沢川等が北流していく、櫛挽面北端部は南北に台地を開析する浅

い谷が発達したものと考えられる。発掘調査で埋没谷が検出されることも多い。また、末端には所謂先端湧水と認められる池等もある。寄居面にはこうした谷筋はほとんど認められず、妻沼低地と接する台地末端部を除き、水利上は生活に不向きだったと考えられる。

妻沼低地は、利根川右岸に広がる肥沃な低地である。南は熊谷市付近を境として秩父山塊に連なる丘陵や台地と大宮台地に挟まれた荒川低地に続き、東は加須低地に接する。妻沼低地は、現在ではほとんど平坦であるが、利根川の氾濫や流路の変遷等により、自然堤防が発達しているものと考えられる。

深谷市内で確認されている旧石器時代の遺跡は多くはないが、荒川右岸の江南台地上には、細石刃や彫刻刀形石器が出土した白草遺跡がある。他に幡羅遺跡と花小路遺跡でナイフ形石器が1点ずつ出土している。縄文時代では、東方城跡で草創期の可能性がある尖頭器が出土している。幡羅遺跡、東方城跡とともに櫛挽台地の先端部に位置している。また、それより南西に



第2図 埼玉県の地形図

位置する小台遺跡からは、早期押型文や前期黒浜式土器、諸磯式土器の破片が出土している。

縄文中期、特に後半になると遺跡数やその規模は増大する。中でも上野台の小台遺跡は、多量の土器や石器を包含する埋没谷を中心に、住居や土坑群が展開する。遺構は中期中葉～後期前葉までのものがこれまでに検出されている。小台遺跡と時期的に重なる遺跡は数多く、小河川を挟んで小集落が多数分布していたか、集落が移動していたものと思われる。

縄文後・晩期になると、縄文人の生活域の中心は櫛挽台地から妻沼低地へと移っていく。明戸東遺跡では後期初頭の住居跡、上敷免北遺跡では後期後葉の遺物包含層が検出されるなどしている。そして上敷免遺跡では、包含層から在地の後・晩期の資料に混じり、東海系条痕文土器が検出されたり、埼玉県では初の遠賀川系の壺が検出されるなど、他地域との交流を考えさせられる。また遺構が検出されなくとも、妻沼低地にある遺跡を調査すると、ほとんどの場合に縄文後期の土器片が検出される状況である。

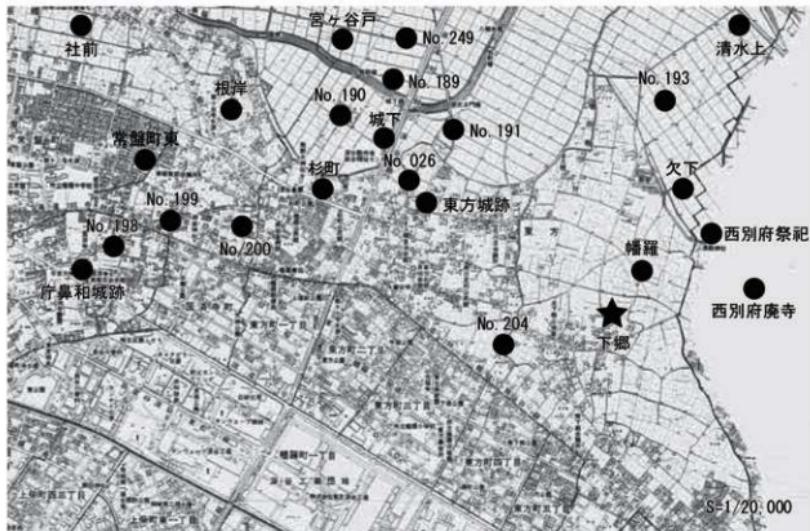
弥生時代に入ると、上敷免遺跡で中期の再葬墓と、若干時期が下る住居跡が同一の自然堤防上に確認され、弥生時代の集落のあり方を考える上で注目される。四十坂遺跡も該期の代表的な遺跡である。

古墳時代前・中期の集落跡は、下手計西浦遺跡や森下遺跡、皿沼西遺跡等、近年調査例が増加している。古墳時代後期前半になると遺跡数は爆発的に増加し、妻沼低地の自然堤防上に大規模な集落が営まれる。この時期には小規模な円墳が数多く造られるようになり、幾つかの古墳群を形成する。中でも代表的なものに、櫛挽台地の先端部に形成される木の本古墳群や白山古墳群がある。下郷遺跡北部に分布する古墳群は、木の本古墳群の東端に位置する。大部分は20～30m規模の円墳で、台地の縁辺に沿って構築される。

7世紀頃には、それまでの大集落は縮小傾向になり、代わって宮ヶ谷戸遺跡や東川端遺跡、清水上遺跡等の、幡羅郡家跡と推定される幡羅遺跡に比較的近い位置にある集落規模が拡大する傾向がみられる。律令期には、深谷市の東部は幡羅郡、西部は櫛沢郡、南部は男会郡に属すると考えられる。櫛沢郡の郡家跡は中宿遺跡で発見されている。また、幡羅郡家跡である幡羅遺跡は、その範囲と内容を確認するための調査が継続中である。新屋敷東遺跡からは、正倉別院の可能性がある大型建物跡が確認されている。

平安時代末期以降は、猪俣党武士団の居館が各地に出現する。代表的なのは岡部氏や人見氏で、岡部六弥太墓と人見氏館跡は、県指定史跡になっている。また、鎌倉街道上道の跡が、旧川本町域から旧花園町域に残る。そして室町時代以降は深谷上杉氏が活躍する。深谷上杉氏は、当初疗鼻和城に居を構えたと言われるが、5代目房憲のときに、古河公方勢力との戦闘に備え、より堅固な深谷城に移ったとされる。深谷城跡の北東約1kmには、深谷上杉氏の宿老岡谷香丹が築いたと言われる皿沼城跡があり、北方の守りを堅固なものにしている。また、香丹が隠居後に移ったとされる曲田城跡が北西にある。下郷遺跡に程近い東方城跡は、深谷城から東に約3kmの台地の先端部に位置する。深谷城の周辺には家臣の館等が分布していたと思われ、南方約1.8kmには家臣の館である秋元氏館跡、南西約2.8kmには古河公方勢力を牽制し人見地城を防衛するために築かれたと考えられる館跡が検出された押切遺跡が存在する。また割山西遺跡では、伝承等が一切残っていないが、方形の区画溝が検出され、館跡と考えられる。

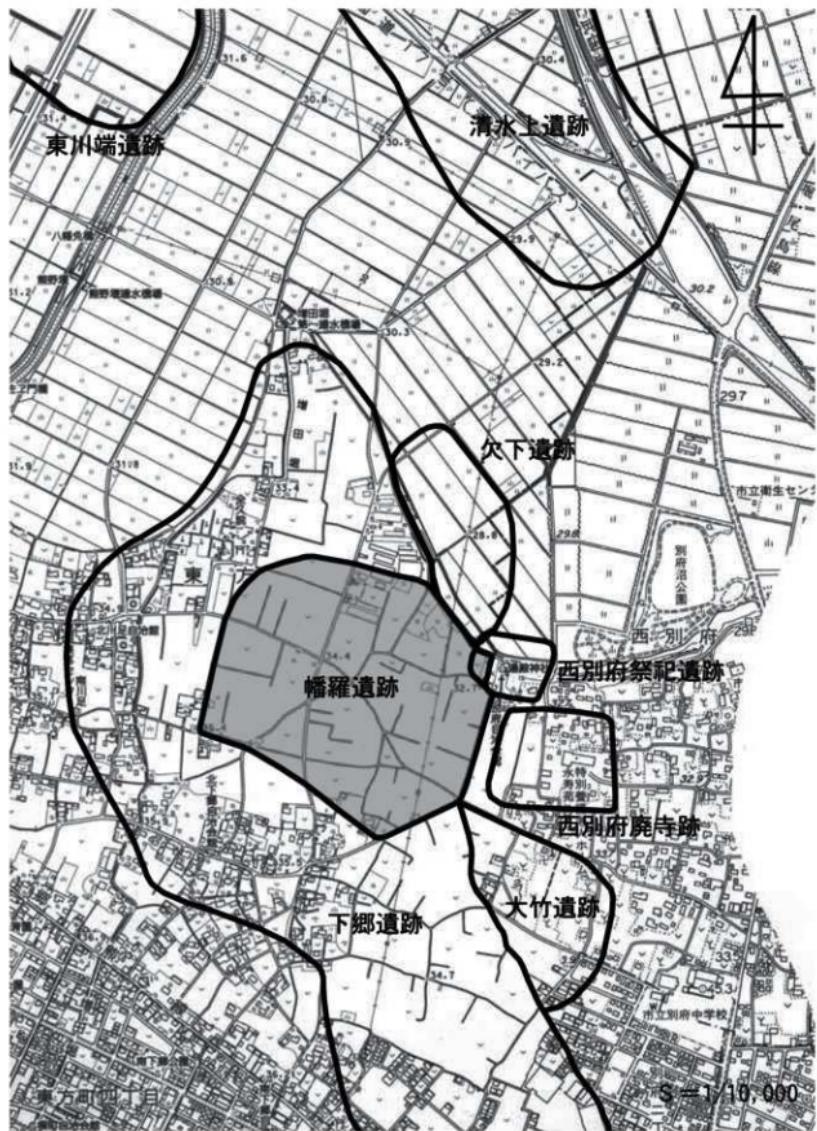
江戸時代になると、深谷城は程なく廃城となり、深谷の大部分は天領となる。また、岡部には岡部藩があり、陣屋が構えられた。



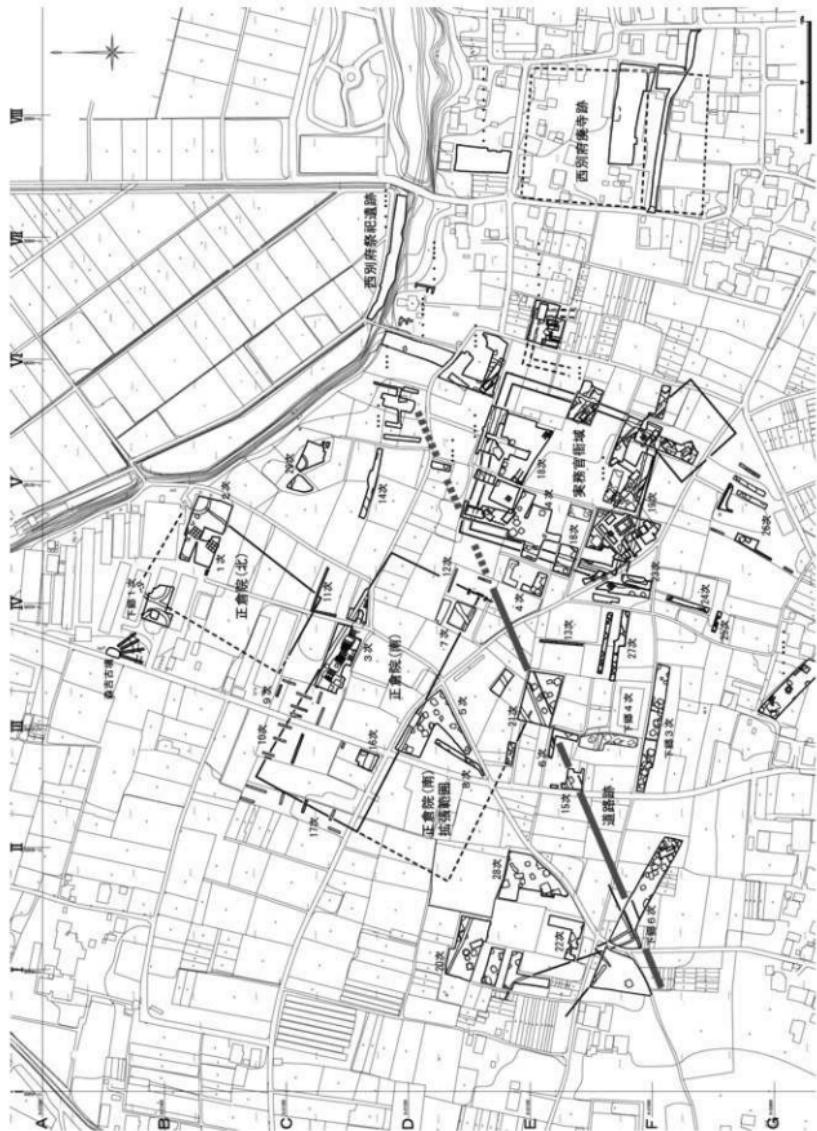
第2図 下郷遺跡及び周辺の遺跡分布図

遺跡名称	時代	遺跡名称	時代
下郷遺跡	縄文中期・後期、古墳後期～平安	疔鼻和城跡	南北朝
幡羅遺跡	古墳後期～平安	社前遺跡	縄文前・中期、古墳後期～平安
西別府廃寺遺跡	古墳後期、平安、中・近世	No.026	縄文中期・後期、古墳後期～平安
西別府祭祀遺跡	古墳後期～平安	No.189	奈良、平安
欠下遺跡	奈良、平安	No.190	古墳後期～平安
清水上遺跡	縄文、弥生前期、古墳前・後期～平安	No.191	古墳後期～平安
東方城跡	縄文早期・後期、室町	No.193	古墳後期～平安
城下遺跡	縄文中期・後期、古墳後期、平安、中・近世	No.198	平安
宮ヶ谷戸遺跡	縄文中・後期、弥生中・後期、古墳後期～平安	No.199	縄文中期、古墳後期～平安
杉町遺跡	縄文中期・古墳後期、奈良、平安、近世	No.200	古墳後期、中世
根岸遺跡	縄文中・後期、古墳後期～平安、中・近世	No.204	縄文、古墳後期～平安
常盤町東遺跡	縄文前期・中期、古墳後期	No.249	奈良、平安

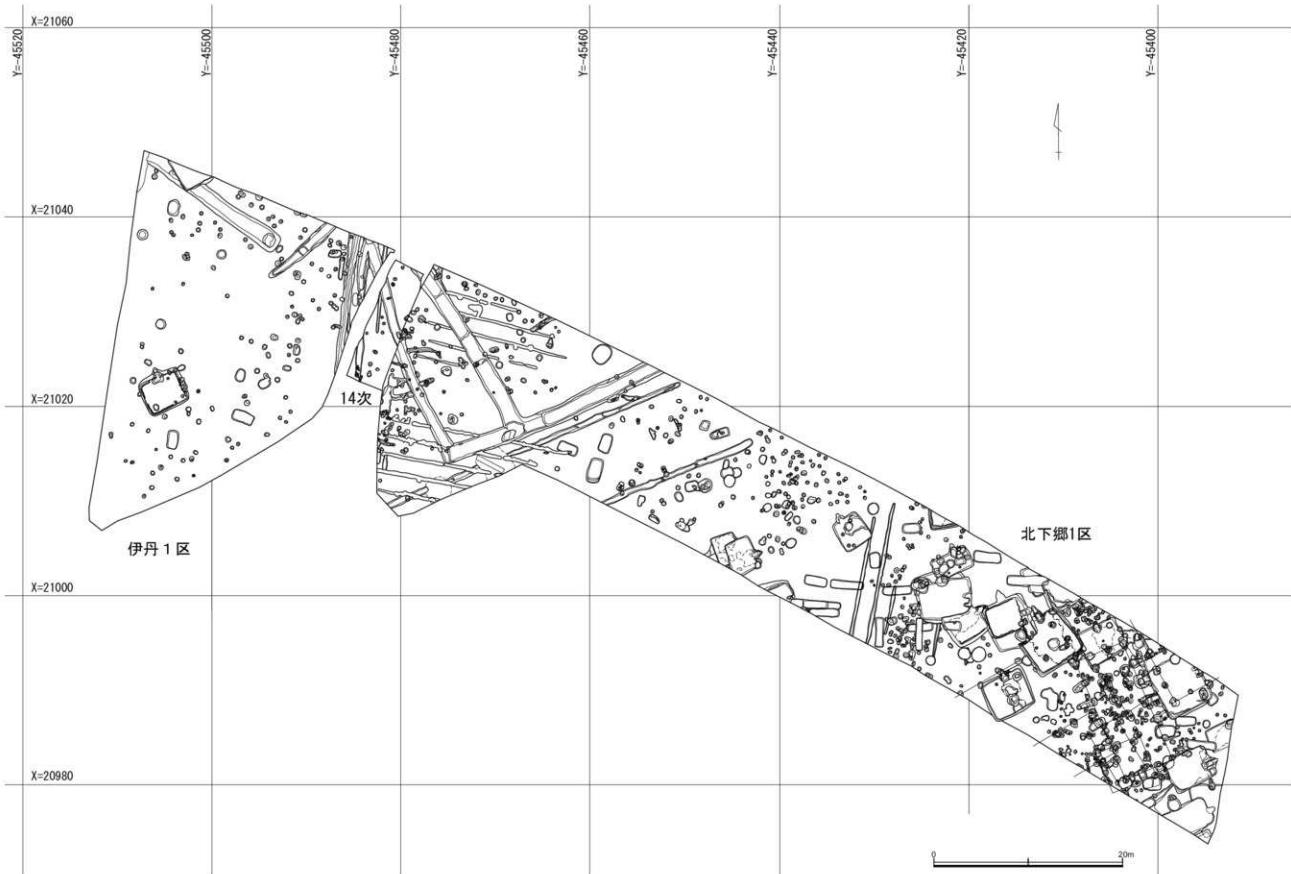
第1表 下郷遺跡及び周辺の遺跡一覧表



第3図 幡羅・下郷遺跡の範囲と周辺遺跡

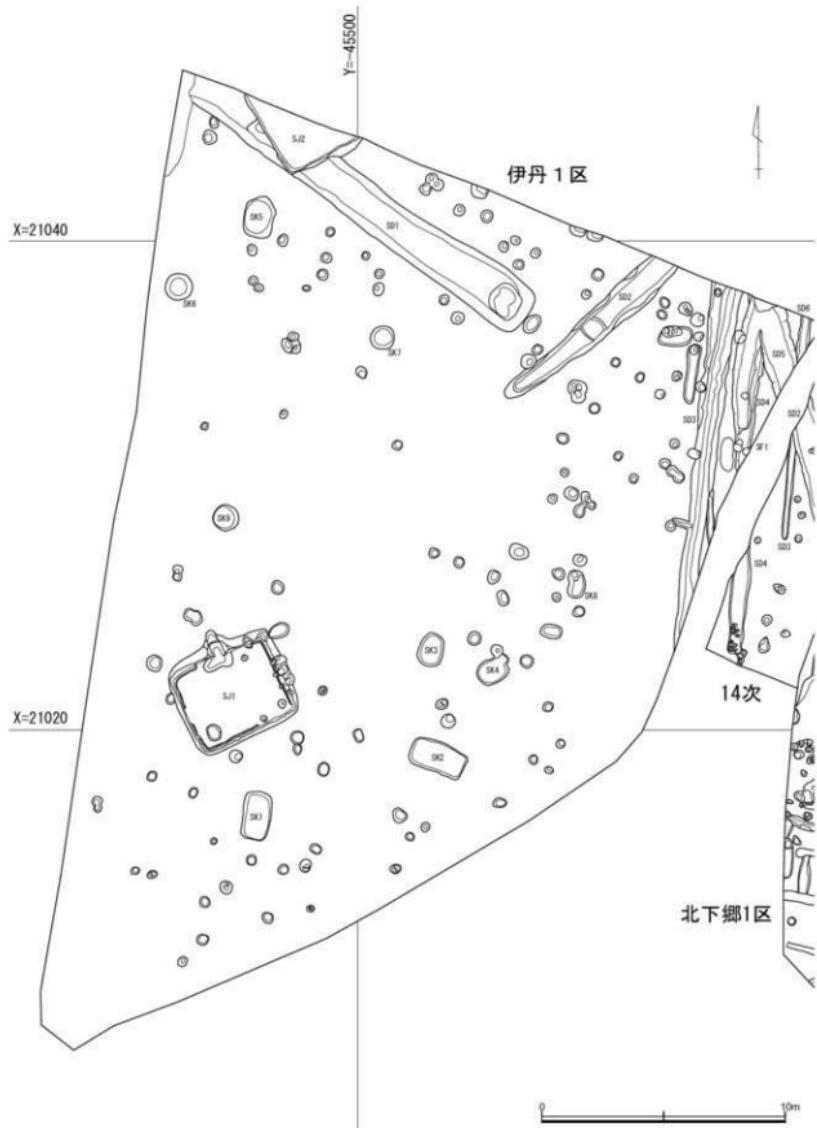


第4図 婆羅・下郷遺跡全体測量図

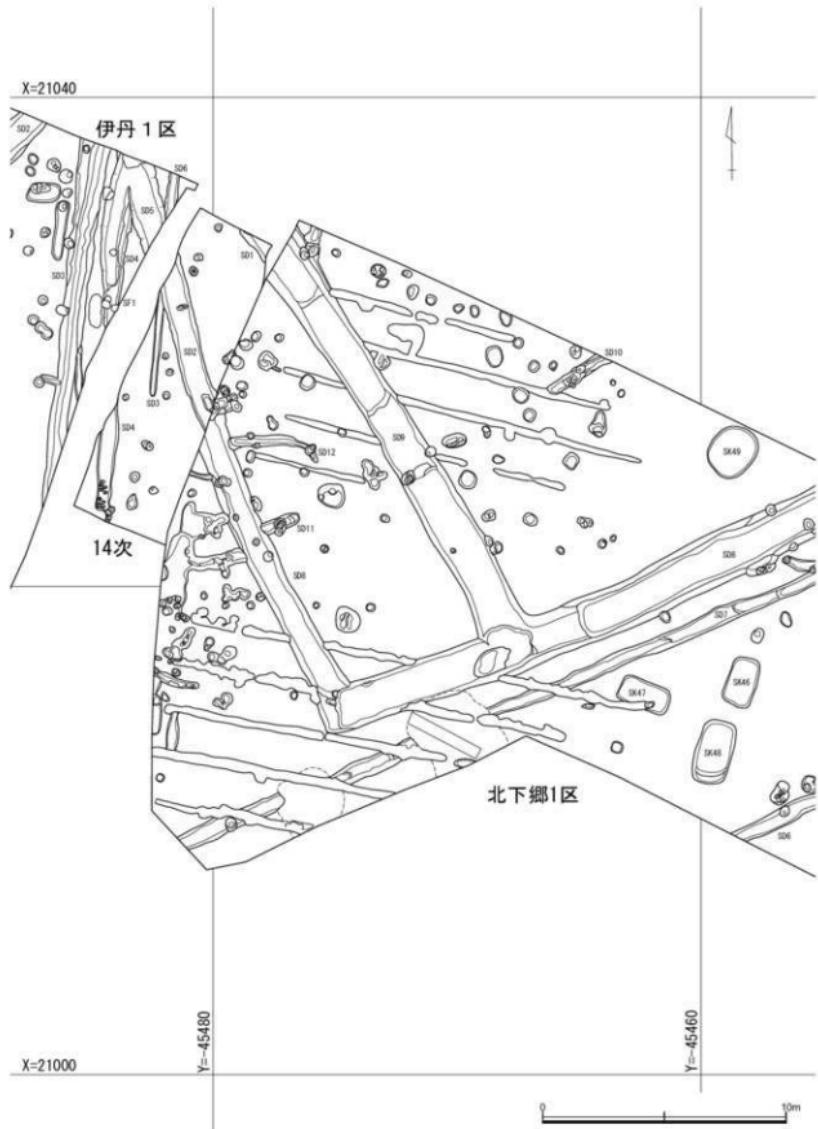


第5図 下郷遺跡第6・14次調査区全体測量図(1)





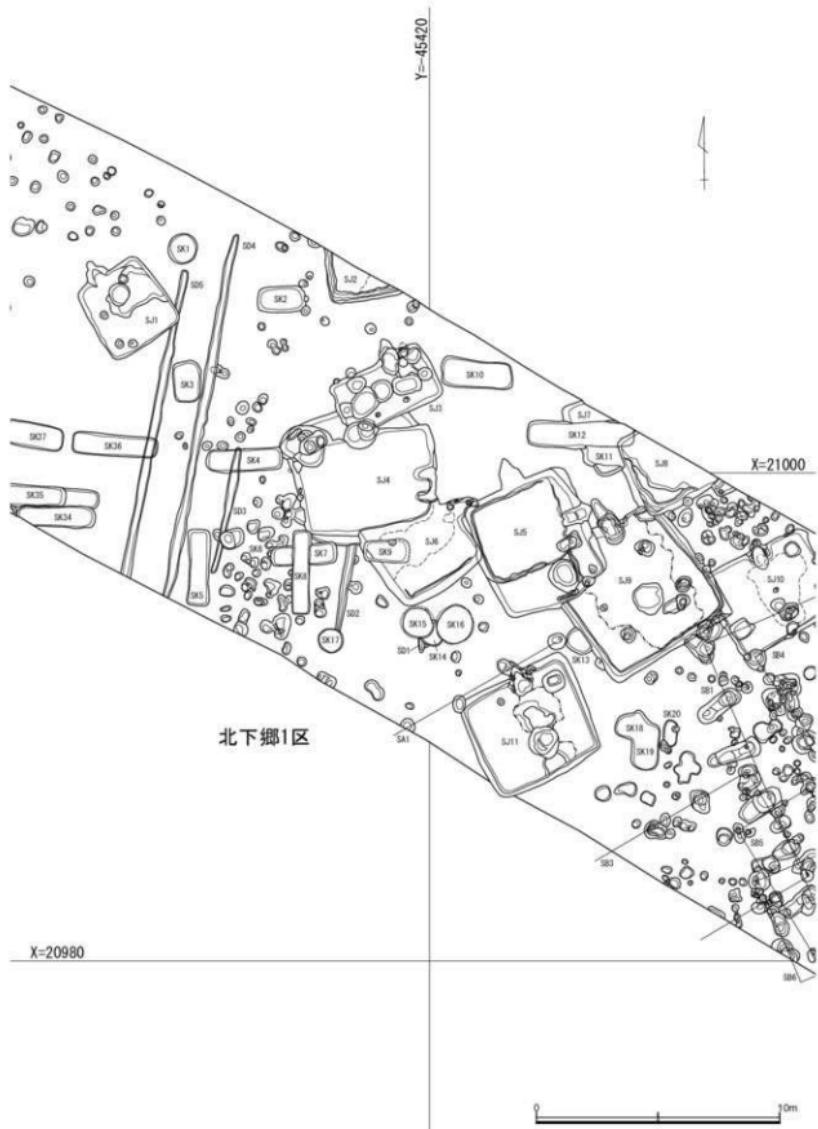
第6図 下郷遺跡第6・14次調査区全体測量図（2）



第7図 下郷遺跡第6・14次調査区全体測量図(3)



第8図 下郷遺跡第6・14次調査区全体測量図(4)



第9図 下郷遺跡第6・14次調査区全体測量図(5)



第10図 下郷遺跡第6・14次調査区全体測量図（6）

### III 遺構と遺物

#### 1 概要

第6次調査区は現道を挟んで、西側の伊丹1区と北下郷1区に区分した。伊丹1区から確認された主な遺構は、竪穴建物跡2棟、溝6条（内1条は道路側溝）、道路跡1条、土坑9基である。道路跡及びその側溝とみられる第3号溝、土坑のほとんどは中世のものと思われる。

北下郷1区から確認された主な遺構は、竪穴建物跡25棟、掘立柱建物跡6棟、溝12条（内2条は道路側溝）、道路跡1条、土坑49基である。土坑のほとんどは中世のものと思われる。また道路跡は、幡羅遺跡で確認されたものへと続くものである。

第14次調査は、東西に分かれた第6次調査区の間にある現道部分を調査したものである。溝4条が確認された。

調査区周辺の標高は約35mである。遺構確認面までの深さは伊丹1区から北下郷1区の西部は約30cm、北下郷1区の東部は約70cmを測る。確認面は伊丹北下郷1区の東半が東に向かって低くなっている、調査区東端付近の標高が約34.2m、伊丹1区から北下郷1区西部にかけての標高は約34.6mを測る。

#### 2 第6次調査伊丹1区

##### a 竪穴建物跡

###### 第1号竪穴建物跡（第11・12図、第2表）

調査区南部に位置する。平面形態は方形で、長軸4.8m、短軸4.1mを測る。主軸方位はN-25°-Wである。

床面は確認面から60cmの深さで、中央がやや盛り上がる。壁は上部が広がる。カマドは北西壁ほぼ中央に構築され、袖は確認されなかった。燃焼部は幅80cm、奥行70cmで、底面はわずかに窪む。煙道は幅45cm、長さ50cmで、先端に向かって浅くなる。

南西隅に、床面からの深さ約10cmの浅い掘り込みが確認された。また、その他床面で確認されたピットは、いずれも床面からの深さ10cm程度である。壁溝は断続的に確認された。幅15~20cm、床面からの深さは約5cmを測る。

図示できた遺物は、第12図1~6である。1・2は土師器壺、3はロクロ土師器壺、4は須恵器高台壺、5は須恵器甕、6は編物石である。なお、3は混入品と思われる。

遺構の時期は、8世紀中葉と推定される。

###### 第2号竪穴建物跡（第13~15図、第3表）

調査区北端部に位置し、第1号溝を切る。平面形態は方形で、主軸方位はN-31°-Wである。

床面は確認面から60cmの深さで、壁は上部がやや広がる。壁溝等は確認されなかった。また、床下土坑が3基確認された。床下土坑はいずれも、床面から約20cmの深さである。

図示できた遺物は、第15図1~12である。1~7は土師器で、1・2は壺、3~5は暗文壺、6は皿、7は甕である。8・9は須恵器甕、10は土錘、11は勾玉、12は凝灰岩製の砥石である。11は黒色を呈し、濃緑玉と思われる。

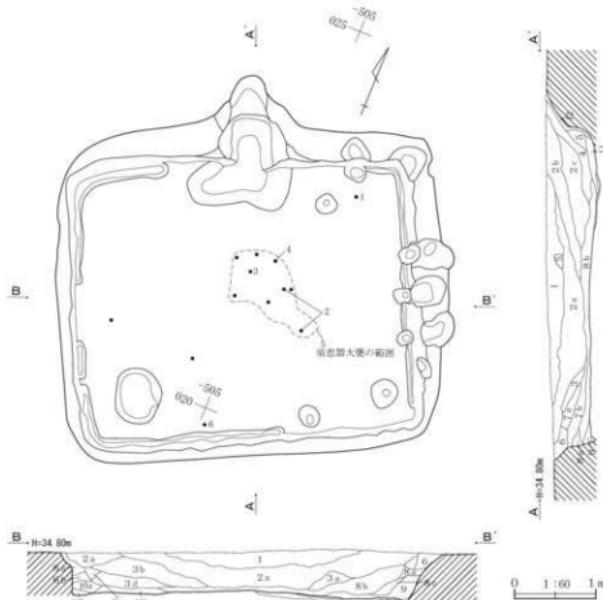
遺構の時期は、8世紀前半と推定される。

##### b 溝

###### 第1号溝（第16~18図、第4・5表）

調査区北部に位置し、第2号竪穴建物跡に切られる。連結はしないが、第2号溝と共に北側を囲う区画溝であろう。主軸方位はN-53°-Wである。幅1.7~2.1m、確認面からの深さは約50cmを測る。先端部はやや深く、確認面から約60cmの深さである。断面形態は、逆台形を呈する。

図示できた遺物は、第18図1~12である。1~5



- 1層 塗刷地土  
2層 塗刷地土  
3層 塗刷地土  
4層 塗刷地土  
5層 塗刷地土  
6層 塗刷地土  
7層 塗刷地土  
8層 塗刷地土  
9層 塗刷地土  
10層 塗刷地土  
11層 塗刷地土  
12層 塗刷地土
- 標上敷子をさわぎてに食す。粘・しまり普通。  
ローム敷子・鉢形物・壁土敷子をさわぎて、a～cの3層に細分可。粘・しまり普通。  
2層に見るが、ロームが底に、a～cに細分可。粘・しまり普通。  
埴上敷子・埴土フリットを多く含む。粘・しまり普通。  
埴上敷子・埴土フリットを多く含む。粘・しまり普通。  
ローム敷子を土全体とする。粘・しまり普通。  
ローム敷子を多く含む。粘・しまり普通。  
ローム敷子を多く含む。粘・しまり普通。  
ローム敷子を多く含む。粘・しまり普通。  
ローム敷子を多く含む。粘・しまり普通。

第11図 第1号竪穴建物跡

は土師器である。1～4は壺、5は皿で、4は内面に螺旋暗文が施される。6～9は須恵器で、6は蓋、7・8は壺、9は甕である。10は土錘、11は鉄釘、12は砥石である。

遺構の時期は、出土遺物や第2号竪穴建物跡との切り合い関係から、7世紀末頃と推定される。

#### 第2号溝（第16・17図）

調査区北部に位置する。第1号溝と共に西側を囲う区画溝であろう。主軸方位はN-47°-Eである。幅

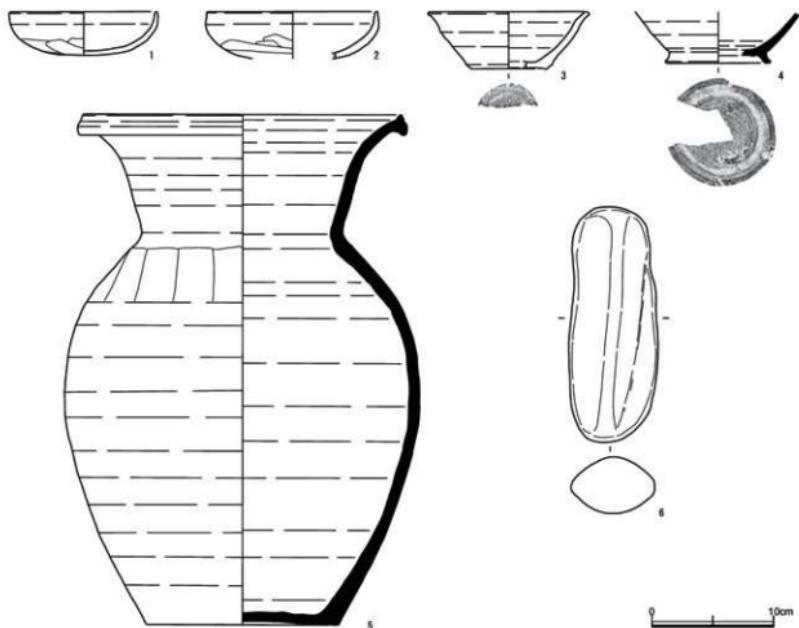
1.2mで、先端に向かって細くなる。断面形態は逆台形を呈し、確認面からの深さは約50cmを測る。

図示できる遺物は出土しなかった。

遺構の時期は、第1号溝との関係から、7世紀末頃と推定される。

#### 第3号溝（第19・21図、第20図1、第6表）

調査区東部に位置する。主軸方位はN-8°-Eである。幅0.7～1.2m、確認面からの深さは40cmを測る。断面形態は逆台形で、壁は急角度で立ち上がる。



第12図 第1号竪穴建物跡出土遺物

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	焼成	色 調	残存	備 考
1	H	坏	12.0	3.5		A C D E	普	橙	100%	
2	H	坏	(14.0)			A C E	普	にぶい橙	30%	
3	R	坏	(13.0)	4.7	(6.2)	A C E I	普	にぶい橙	25%	
4	S	高台坏			8.5	A C F H	普	青灰	30%	
5	S	甕	26.1	42.0	15.8	A C F H	普	灰	60%	
6		編物石	長 19.6	幅 7.2	厚 4.7	石材: 砂岩				重さ 1000g

第2表 第1号竪穴建物跡出土遺物観察表

図示できた遺物は、第20図1の鉄釘である。

位置関係等から、第1号道路跡の側溝だった可能性が考えられる。遺構の時期は、中世と推定される。

南に向かって細くなる。確認面からの深さは、30～40cmを測る。

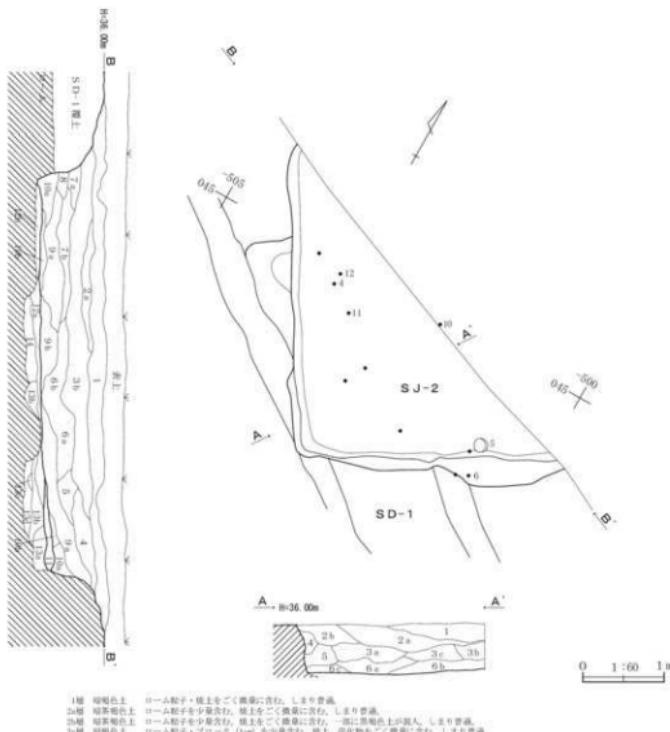
図示できた遺物は、第20図2の把手の付く須恵器甕である。

#### 第4号溝（第20図2、第22・23図、第6表）

調査区東部に位置し、第1号道路跡に切られ、第5号溝と重複する。第14次4号溝と同一の溝である。主軸方位はN-6°-Eである。幅0.6～1.2mで、

#### 第5号溝（第22～25図、第7・8表）

調査区東部に位置する。第1号道路跡、第6号溝に切られ、第4号溝と重複する。北下郷1区第10号溝及



1層	暗褐色土	ローム粘子。植生ごく貧弱に含む。しまり普通。
2層	暗褐色土	ローム粘子を少含む。植生ごく貧弱に含む。しまり普通。
3a層	暗褐色土	ローム粘子を少含む。植生ごく貧弱に含む。しまり普通。
3b層	暗褐色土	ローム粘子を少含む。植生ごく貧弱に含む。しまり普通。
3c層	暗褐色土	ローム粘子を少含む。植生ごく貧弱に含む。しまり普通。
3d層	暗褐色土	ローム粘子・ブロック (2cm) を多量に含む。植生ごく貧弱に含む。しまり普通。
3e層	暗褐色土	ローム粘子・ブロック (2cm) を多量に含む。植生ごく貧弱に含む。しまり普通。
3f層	暗褐色土	ローム粘子・ブロック (2cm) を多量に含む。植生ごく貧弱に含む。しまり普通。
3g層	暗褐色土	ローム粘子・ブロック (2cm) を多量に含む。植生ごく貧弱に含む。しまり普通。
3h層	黄褐色土	ローム粘子・ブロック (2cm) を多量に含む。植生ごく貧弱に含む。しまり普通。
3i層	黄褐色土	ローム粘子・ブロック (2cm) を多量に含む。植生ごく貧弱に含む。一部に暗褐色土が混入。しまり普通。
3j層	黄褐色土	ローム粘子・ブロック (2cm) を多量に含む。植生ごく貧弱に含む。しまりやや強め。
4層	暗褐色土	ローム粘子・ブロック (2cm) を多量に含む。植生ごく貧弱に含む。しまり普通。
5層	暗褐色土	ローム粘子・ブロック (2cm) を多量に含む。植生ごく貧弱に含む。しまり普通。
6層	暗褐色土	ローム粘子・ブロック (2cm) を多量に含む。植生ごく貧弱に含む。しまり普通。
7層	暗褐色土	ローム粘子・ブロック (2cm) を多量に含む。植生ごく貧弱に含む。しまり普通。
8層	暗褐色土	ローム粘子・ブロック (2cm) を多量に含む。植生ごく貧弱に含む。しまり普通。
9層	暗褐色土	ローム粘子・ブロック (2cm) を多量に含む。植生ごく貧弱に含む。a - bの間に隙部分。植・しまり普通。
10層	暗褐色土	ローム粘子・ブロック (2cm) を多量に含む。植・しまり強め。
11層	黒褐色土	ローム・粘土・粘土岩全体で、微化物。植生を少含む。テクニク状をなす部分もある。a - bの間に隙部分。植・しまり強め。
12層	黒褐色土	ローム・粘土・粘土岩全体で、微化物。植生を少含む。テクニク状をなす部分もある。a - bの間に隙部分。植・しまり強め。
13層	黒褐色土	ローム粘子を主とし、微化物を含む。a - bの間に隙部分。植・しまり強め。

第13図 第2号竪穴建物跡

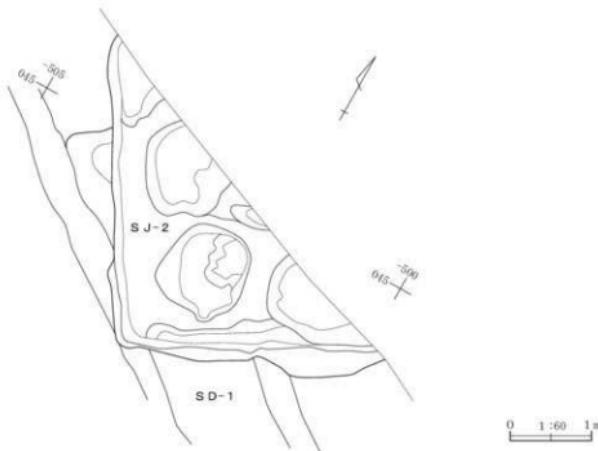
び第14次2号溝と同一の溝で、北東を開く区画溝と考えられる。主軸方位はN-20°-Wである。幅1.4m、確認面からの深さは60cmを測る。断面形態は逆台形である。多量の土鍤がまとまって出土した。

図示できた遺物は、第24図1～第25図95である。全て土鍤で、一括廃棄されたものと考えられる。遺構の時期は、8世紀代と推定される。

#### 第6号溝 (第22・23図)

調査区東部に位置する。第5号溝を切り、第1号道路跡に切られる。第14次3号溝と同一の溝である。主軸方位はN-5°-Eである。幅40cm、確認面からの深さ20cmを測る。

図示できる遺物は出土しなかった。



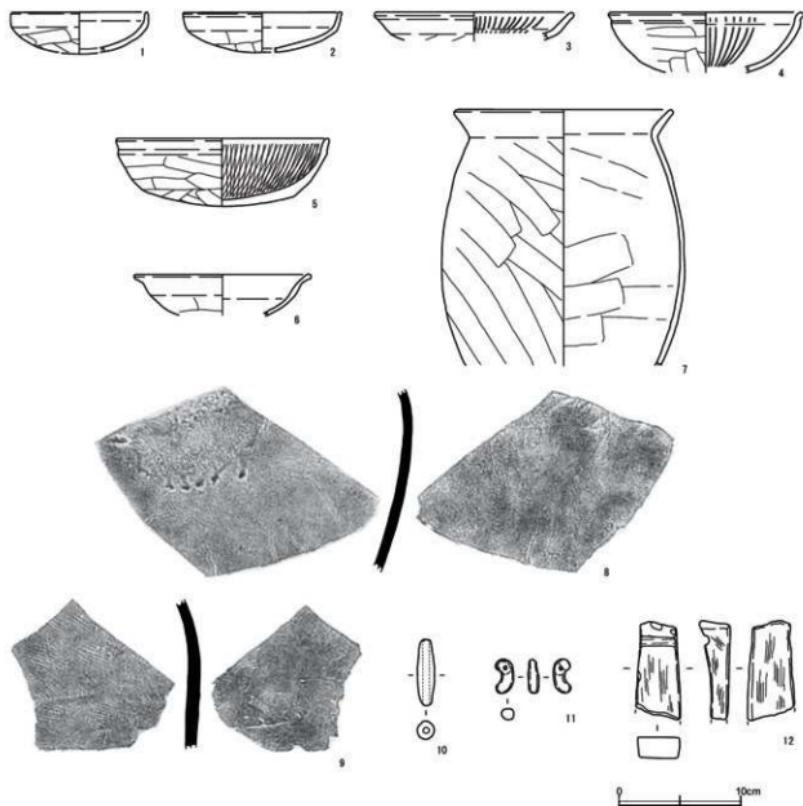
第14図 第2号豊穴建物跡掘方

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	焼成	色 調	残存	備 考
1	H	环	(11.0)	(3.4)		A C E I	良	橙	25%	
2	H	环	(12.8)	3.3		A B C E I	良	橙	30%	
3	H	环	(16.0)			A B C E	普	橙	15%	
4	H	环	(15.7)			A C E	良	橙 橙	15%	
5	H	环	17.2		5.5	A B C E I	普	橙	90%	
6	H	环	(14.2)			A B C E H I	普	橙	20%	
7	H	甕	(17.6)			A B C E H	良	橙	25%	
8	S	甕				A C F H	良	黑褐		外面に自然釉
9	S	蓋				A C F H	良	灰		
10		土鍤	長 5.4	幅 1.4	厚 1.5	A B C E	普	暗褐	100%	重さ 10.70g
11		勾玉	長 2.8	幅 0.9	厚 0.9	石材: 濃緑玉				重さ 4.83g
12		砥石		幅 3.3	厚 1.6	石材: 凝灰岩				重さ 88.73g

第3表 第2号豊穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	焼成	色 調	残存	備 考
1	H	环	(11.5)			A C E	普	灰褐	15%	
2	H	环	(12.7)			A C E	普	橙	15%	
3	H	环	(13.9)	2.3		A C E I	普	暗褐	25%	
4	H	环				A C E	良	橙	5%	
5	H	皿	(16.3)			A C E	普	橙	15%	
6	S	蓋	(15.4)	(3.3)		A C F H	普	灰	25%	
7	S	环	(16.0)	4.0	(10.0)	A C F H	良	青灰	25%	
8	S	环	(16.8)			A C	不良	灰	15%	
9	S	甕				A C F H	普	灰		

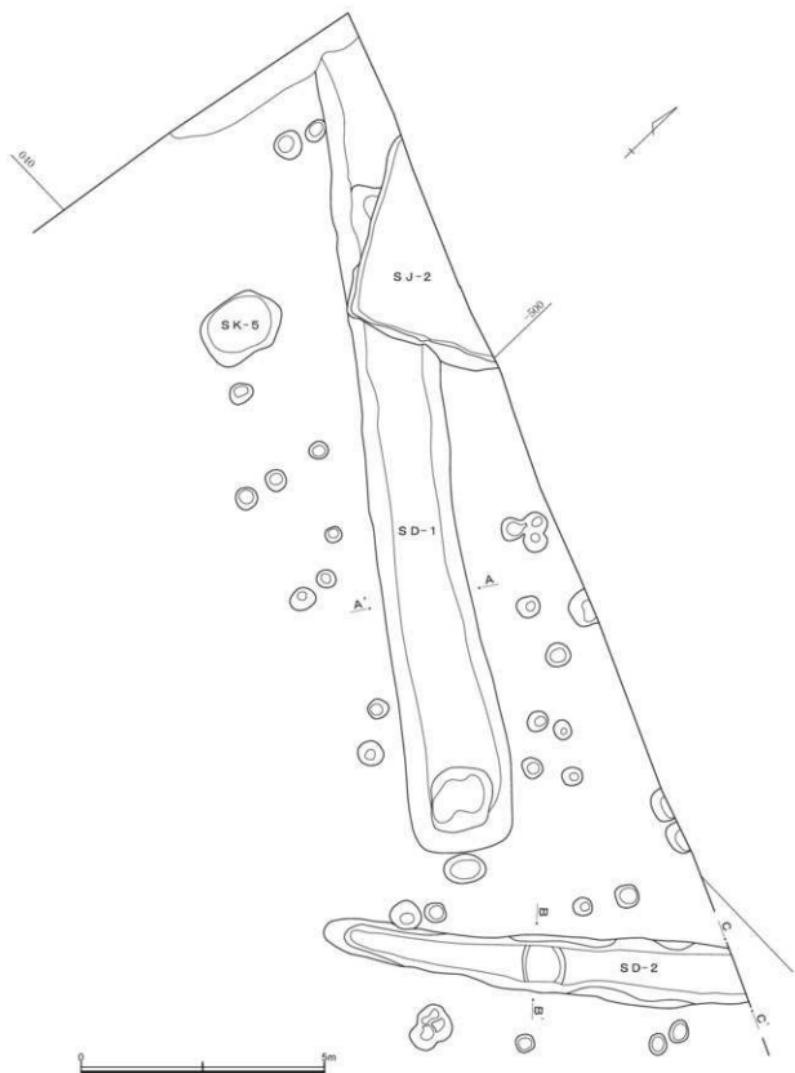
第4表 第1号溝出土遺物観察表 (1)



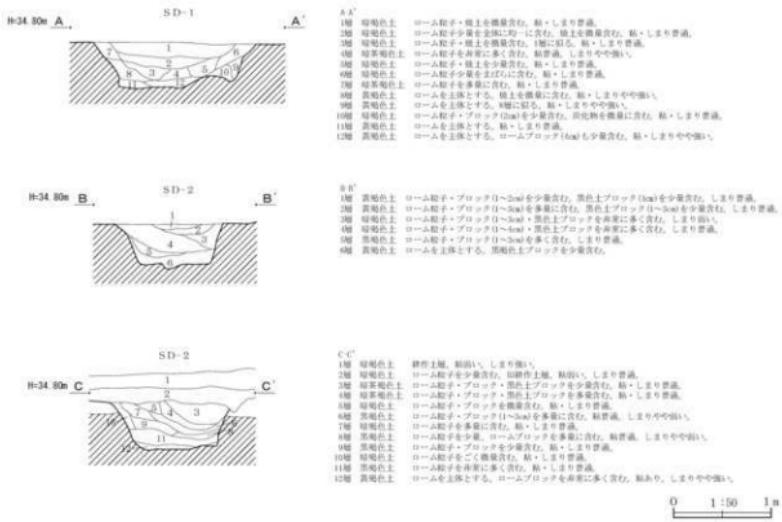
第15図 第2号竪穴建物跡出土遺物

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
10		土鍤		幅1.2	厚1.1	A C E	良	暗褐色	50%	重さ 4.32g
11		鉄釘		幅0.5	厚0.5					重さ 3.08g
12		砥石				石材：凝灰岩				重さ 30g

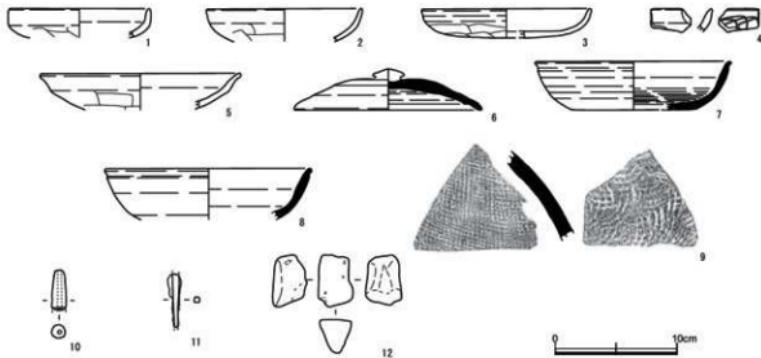
第5表 第1号溝出土遺物観察表 (2)



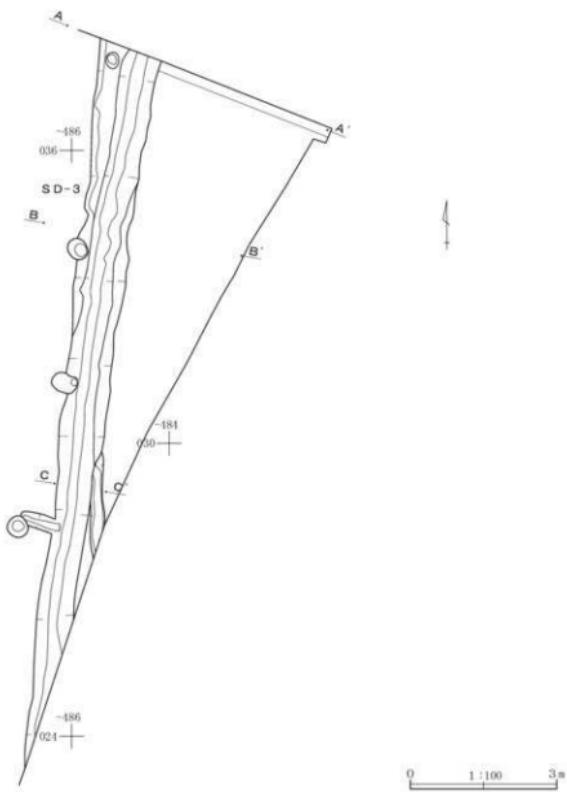
第16図 第1・2号溝



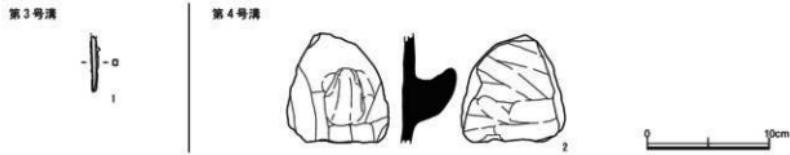
第17図 第1・2号溝土層断面



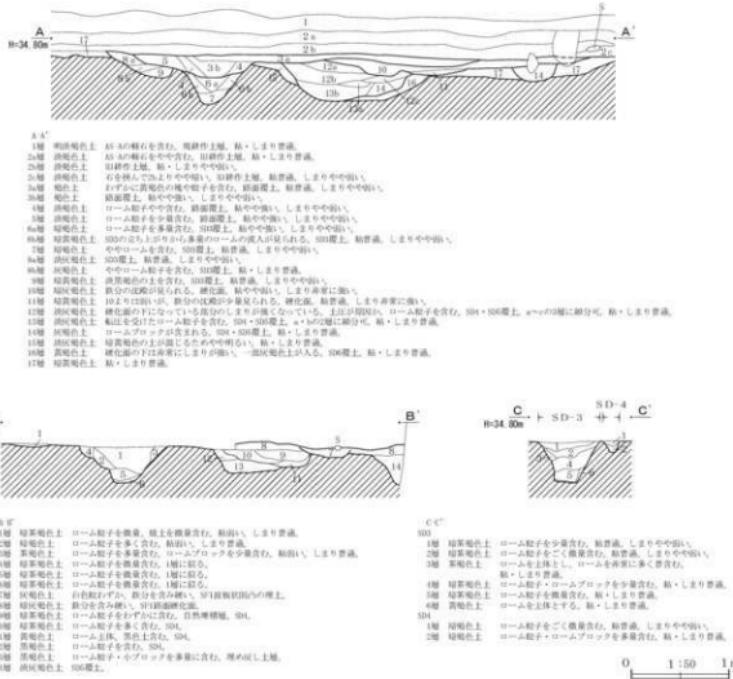
第18図 第1号溝出土遺物



第19図 第3号溝



第20図 第3・4号溝出土遺物



第21図 第3号溝土層断面

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	SD 3		鉄釘		幅 0.4	厚 0.5					重さ 1.81g
2	SD 4	S	甌				A B C E F H	良	灰褐		

第6表 第3・4号溝出土遺物観察表

## c 道路跡

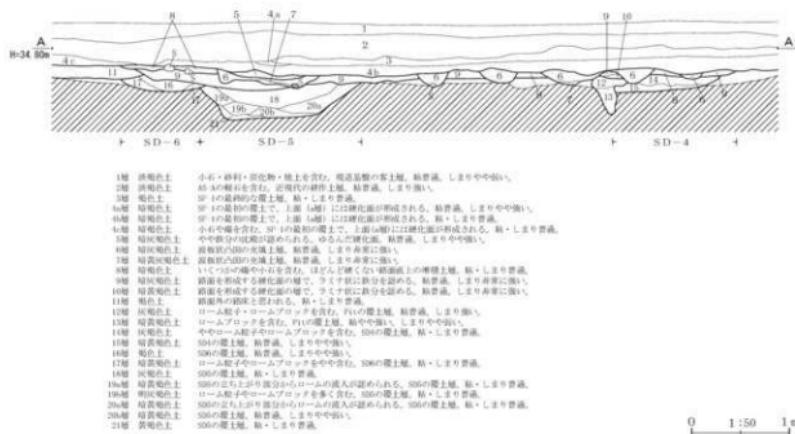
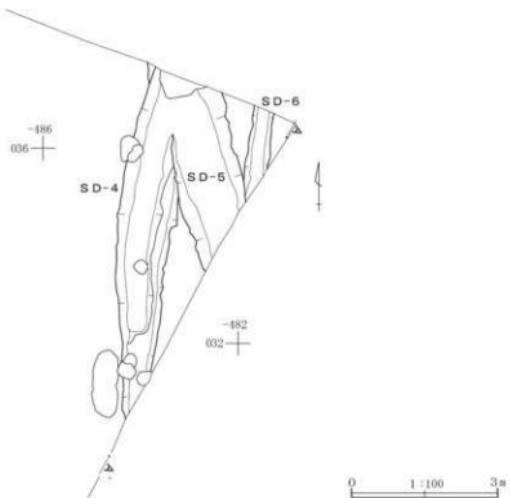
### 1号道路跡（第26～28図、第9表）

調査区東部に位置する。第4～6号溝の上面に、硬化面と波板状の痕跡が確認された。道路跡と推定され、少なくとも一時期は第3号溝を側溝としていたと考えられる。東側溝に当たる溝は確認されなかった。路面

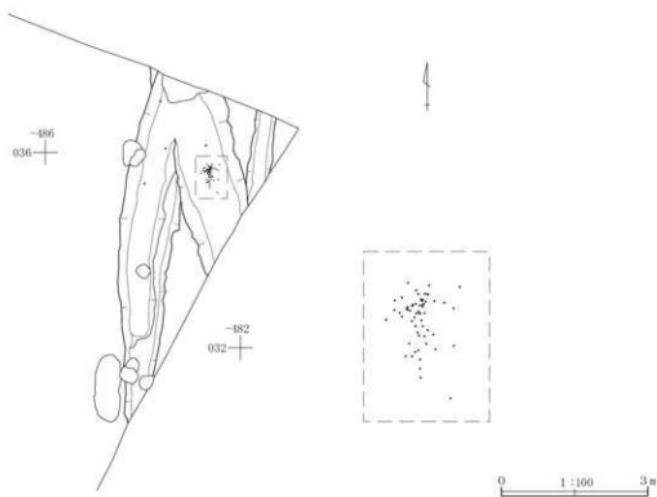
幅は不明であるが、4～5m程度と思われる。主軸方位はN-8°-Eである。

図示できた遺物は、第27図1・2である。1は須恵器甌、2は平瓦である。共に波板状痕跡の覆土内から出土した。

遺構の時期は、中世と推定される。



第22図 第4～6号溝



第23図 第4～6号溝遺物出土状況

## d 土 坑

### 第1号土坑（第29図）

調査区南部に位置する。平面形態は長方形で、長軸1.95m、短軸1.15mを測る。底面はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。確認面からの深さは55cmを測る。主軸方位はN-10°-Eである。

図示できる遺物は出土しなかった。

### 第2号土坑（第29図）

調査区南部に位置する。平面形態は長方形で、長軸2.3m、短軸1.25mを測る。底面はほぼ平坦で、壁は斜めに立ち上がる。確認面からの深さは10cmを測る。主軸方位はN-68°-Wである。

図示できる遺物は出土しなかった。

### 第3号土坑（第29図）

調査区南部に位置する。平面形態は楕円形で、長径

1.35m、短径1.0mを測る。底面はほぼ平坦で、壁は斜めに立ち上がる。確認面からの深さは5cmを測る。主軸方位はN-16°-Eである。

図示できる遺物は出土しなかった。

### 第4号土坑（第29図）

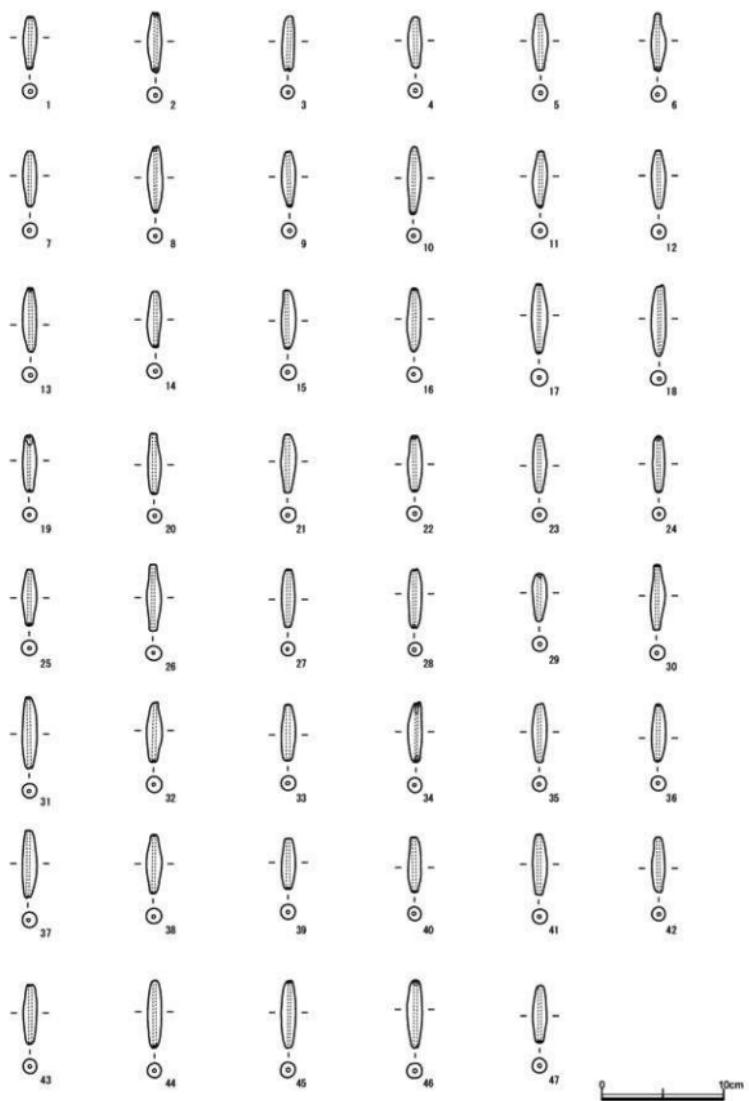
調査区南部に位置する。平面形態は不整楕円形で、長径1.5m、短径1.0mを測る。底面はほぼ平坦で、壁は斜めに立ち上がる。確認面からの深さは10cmを測る。主軸方位はN-54°-Eである。

図示できる遺物は出土しなかった。

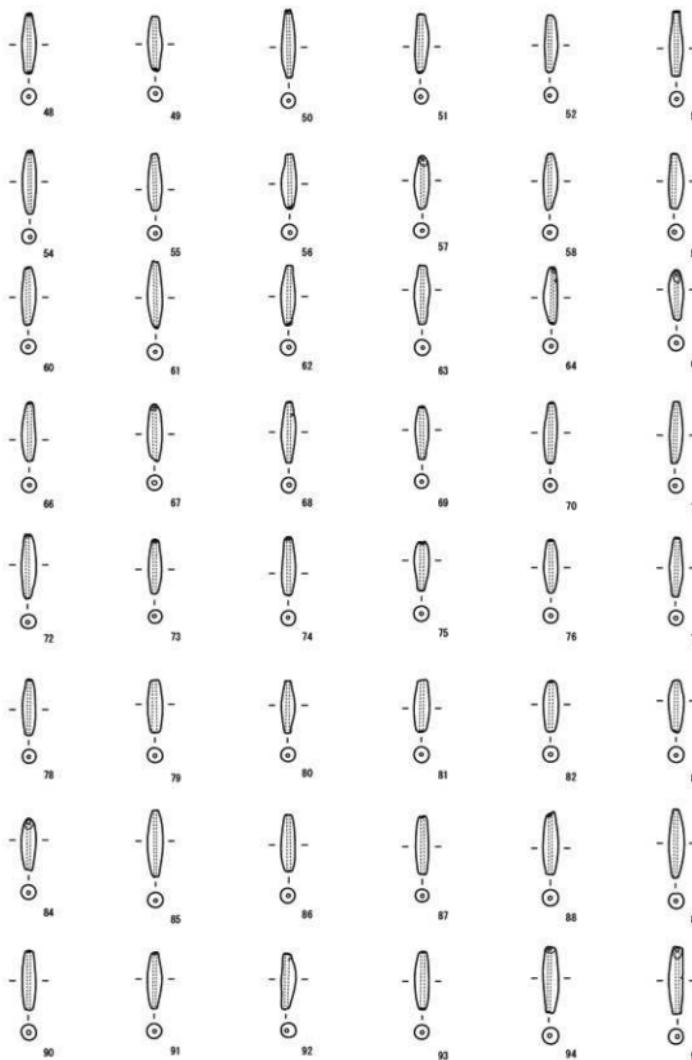
### 第5号土坑（第29図）

調査区北西部に位置する。平面形態は楕円形で、長径1.7m、短径1.2mを測る。底面は北に向かって浅くなり、壁は斜めに立ち上がる。確認面からの深さは、最深部で15cmを測る。主軸方位はN-7°-Eである。

図示できる遺物は出土しなかった。



第24図 第5号溝出土遺物 (1)



0 10cm

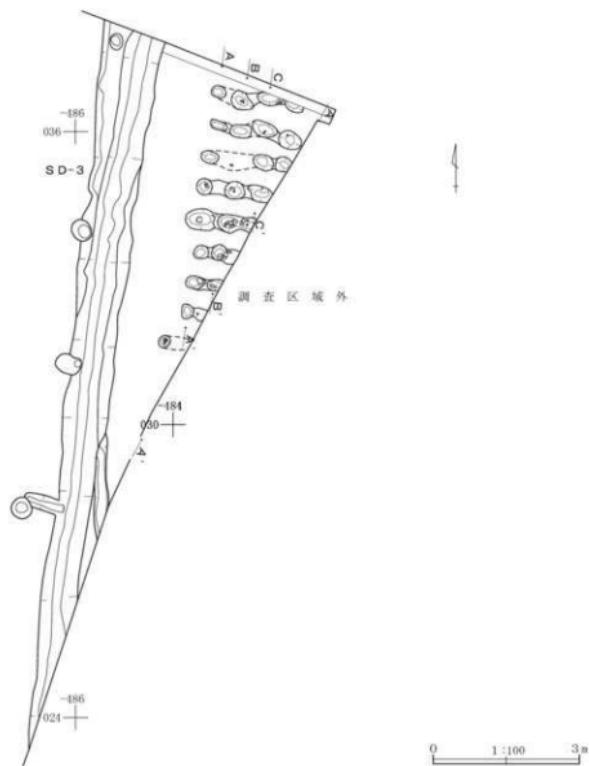
第25図 第5号溝出土遺物（2）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1		土鉢	長4.3	幅1.3	厚1.2	A B C E	普	橙	100%	重さ 4.24g
2		土鉢	長4.5	幅1.1	厚1.2	A B C	普	橙	90%	重さ 4.95g
3		土鉢	長4.5	幅1.0	厚1.1	A B C	不良	黒褐色	100%	重さ 4.83g
4		土鉢	長4.2	幅1.2	厚1.2	A B C	普	橙	100%	重さ 4.48g
5		土鉢	長4.6	幅1.3	厚1.3	A B C	普	橙	100%	重さ 4.94g
6		土鉢	長4.8	幅1.2	厚1.2	A B C	普	橙	100%	重さ 5.01g
7		土鉢	長4.6	幅1.1	厚1.2	A B C	普	橙	100%	重さ 4.20g
8		土鉢	長5.5	幅1.2	厚1.2	A B C	普	橙	100%	重さ 5.44g
9		土鉢	長4.6	幅1.2	厚1.2	A B C	普	にぶい橙	100%	重さ 5.00g
10		土鉢	長5.6	幅1.1	厚1.2	A B C E	普	橙	100%	重さ 5.51g
11		土鉢	長4.7	幅1.2	厚1.3	A B C	普	にぶい橙	100%	重さ 4.92g
12		土鉢	長4.8	幅1.2	厚1.2	A B C	普	にぶい橙	100%	重さ 4.64g
13		土鉢	長5.2	幅1.1	厚1.2	A B C	普	にぶい橙	100%	重さ 5.09g
14		土鉢	長4.6	幅1.1	厚1.2	A B C E	普	橙	100%	重さ 4.75g
15		土鉢	長4.9	幅1.2	厚1.3	A B C	普	にぶい橙	100%	重さ 5.15g
16		土鉢	長5.2	幅1.1	厚1.2	A B C E	普	橙	100%	重さ 5.19g
17		土鉢	長5.7	幅1.3	厚1.4	A B C	普	にぶい橙	100%	重さ 7.38g
18		土鉢	長5.8	幅1.2	厚1.2	A B C E	普	橙	100%	重さ 6.26g
19		土鉢	長4.7	幅1.2	厚1.2	A B C E	普	にぶい橙	95%	重さ 4.61g
20		土鉢	長5.1	幅1.1	厚1.2	A C	普	橙	100%	重さ 4.05g
21		土鉢	長4.8	幅1.3	厚1.2	A B C	普	にぶい橙	100%	重さ 5.16g
22		土鉢	長4.7	幅1.2	厚1.2	A B C	普	橙	100%	重さ 4.91g
23		土鉢	長4.7	幅1.1	厚1.1	A B C E	普	にぶい橙	100%	重さ 4.25g
24		土鉢	長4.6	幅1.0	厚1.0	A B C	普	にぶい橙	100%	重さ 3.88g
25		土鉢	長4.6	幅1.2	厚1.2	A B C	普	橙	100%	重さ 4.82g
26		土鉢	長5.5	幅1.2	厚1.2	A B C E	良	橙	100%	重さ 5.60g
27		土鉢	長4.8	幅1.1	厚1.1	A B C	普	にぶい橙	100%	重さ 4.37g
28		土鉢	長4.9	幅1.1	厚1.1	A B C E	不良	黒褐色	100%	重さ 4.73g
29		土鉢	長3.9	幅1.2	厚1.2	A B C H	普	橙	100%	重さ 4.13g
30		土鉢	長5.3	幅1.2	厚1.2	A B C	普	橙	100%	重さ 4.95g
31		土鉢	長5.9	幅1.2	厚1.2	A B C	普	にぶい橙	100%	重さ 6.15g
32		土鉢	長4.9	幅1.3	厚1.3	A B C	普	橙	100%	重さ 5.44g
33		土鉢	長4.6	幅1.2	厚1.2	A B C E	普	にぶい橙	100%	重さ 4.64g
34		土鉢	長4.9	幅1.2	厚1.2	A B C E	普	橙	95%	重さ 5.11g
35		土鉢	長4.8	幅1.2	厚1.2	A B C	普	橙	100%	重さ 4.97g
36		土鉢	長4.7	幅1.2	厚1.2	A B C	普	にぶい橙	100%	重さ 4.92g
37		土鉢	長5.5	幅1.2	厚1.3	A B C	普	にぶい橙	100%	重さ 5.64g
38		土鉢	長4.9	幅1.3	厚1.2	A B C	普	橙	100%	重さ 4.98g
39		土鉢	長4.2	幅1.2	厚1.2	A B C	普	橙	100%	重さ 4.32g
40		土鉢	長4.5	幅1.1	厚1.2	A B C H	普	橙	100%	重さ 4.16g
41		土鉢	長5.0	幅1.2	厚1.2	A B C E	普	橙	100%	重さ 4.98g
42		土鉢	長4.5	幅1.1	厚1.1	A B C	普	橙	100%	重さ 3.90g
43		土鉢	長4.8	幅1.1	厚1.2	A B C	普	にぶい橙	100%	重さ 4.66g
44		土鉢	長5.4	幅1.1	厚1.2	A B C	普	橙	100%	重さ 5.58g
45		土鉢	長5.4	幅1.2	厚1.2	A B C E	普	にぶい橙	100%	重さ 6.11g
46		土鉢	長5.5	幅1.3	厚1.2	A C F I	普	暗褐色	100%	重さ 7.10g
47		土鉢	長4.6	幅1.2	厚1.2	A B C	普	にぶい橙	100%	重さ 4.87g
48		土鉢	長4.9	幅1.2	厚1.3	A B C	普	橙	100%	重さ 4.88g
49		土鉢	長4.4	幅1.2	厚1.2	A B C	普	橙	100%	重さ 4.44g

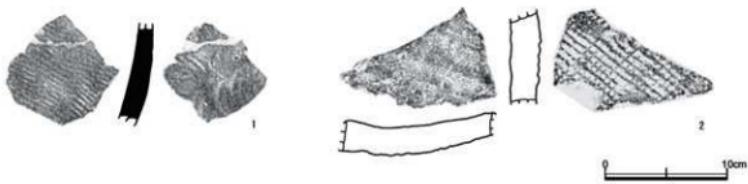
第7表 第5号溝出土遺物観察表(1)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
50		土鉢	長 5.5	幅 1.1	厚 1.2	A B C	普	橙	100%	重さ 5.50g
51		土鉢	長 4.8	幅 1.1	厚 1.2	A B C	普	橙	100%	重さ 4.55g
52		土鉢	長 4.6	幅 1.1	厚 1.2	A B C	普	橙	100%	重さ 4.38g
53		土鉢	長 5.3	幅 1.1	厚 1.2	A B C	良	橙	100%	重さ 4.86g
54		土鉢	長 5.1	幅 1.2	厚 1.2	A B C E	普	橙	100%	重さ 5.18g
55		土鉢	長 4.7	幅 1.1	厚 1.2	A B C	普	橙	100%	重さ 4.59g
56		土鉢	長 4.6	幅 1.3	厚 1.3	A B C	普	橙	100%	重さ 4.69g
57		土鉢		幅 1.1	厚 1.2	A B C	普	にぶい橙	90%	重さ 4.88g
58		土鉢	長 4.8	幅 1.2	厚 1.2	A B C	普	橙	100%	重さ 4.63g
59		土鉢	長 4.6	幅 1.2	厚 1.3	A B C	普	橙	100%	重さ 4.89g
60		土鉢	長 4.7	幅 1.2	厚 1.2	A B C	良	橙	100%	重さ 4.90g
61		土鉢	長 5.5	幅 1.2	厚 1.3	A B C	普	橙	100%	重さ 4.66g
62		土鉢	長 4.9	幅 1.2	厚 1.3	A C	良	橙	100%	重さ 4.92g
63		土鉢	長 4.9	幅 1.3	厚 1.3	A B C	良	橙	100%	重さ 4.43g
64		土鉢	長 4.7	幅 1.1	厚 1.2	A B C	普	橙	100%	重さ 4.58g
65		土鉢	長 (4.2)	幅 1.2	厚 1.3	A B C I	普	にぶい橙	90%	重さ 3.78g
66		土鉢	長 4.9	幅 1.2	厚 1.2	A B C E	普	橙	100%	重さ 5.19g
67		土鉢	長 4.7	幅 1.2	厚 1.3	A C E	普	にぶい橙	95%	重さ 6.63g
68		土鉢	長 5.0	幅 1.2	厚 1.3	A B C	良	橙	100%	重さ 5.22g
69		土鉢	長 4.4	幅 1.1	厚 1.2	A B C	普	橙	100%	重さ 3.83g
70		土鉢	長 5.1	幅 1.1	厚 1.1	A B C	普	橙	100%	重さ 4.70g
71		土鉢	長 5.1	幅 1.1	厚 1.2	A B C E	普	橙	100%	重さ 6.43g
72		土鉢	長 5.3	幅 1.2	厚 1.1	A B C	普	橙	100%	重さ 5.74g
73		土鉢	長 4.5	幅 1.1	厚 1.1	A B C	普	橙	100%	重さ 4.03g
74		土鉢	長 4.8	幅 1.1	厚 1.2	A B C	良	橙	100%	重さ 4.75g
75		土鉢	長 4.0	幅 1.2	厚 1.3	A B C	普	橙	100%	重さ 4.15g
76		土鉢	長 4.4	幅 1.2	厚 1.2	A B C	普	橙	100%	重さ 4.84g
77		土鉢	長 4.9	幅 1.1	厚 1.2	A B C	普	橙	100%	重さ 4.43g
78		土鉢	長 4.6	幅 1.1	厚 1.1	A B C	普	橙	100%	重さ 4.56g
79		土鉢	長 4.3	幅 1.2	厚 1.2	A B C E	普	橙	100%	重さ 5.35g
80		土鉢	長 4.3	幅 1.1	厚 1.1	A B C E	普	橙	100%	重さ 3.22g
81		土鉢	長 4.3	幅 1.3	厚 1.3	A B C E	普	橙	100%	重さ 6.27g
82		土鉢	長 4.2	幅 1.3	厚 1.2	A B C E	普	橙	100%	重さ 6.17g
83		土鉢	長 4.3	幅 1.3	厚 1.3	A B C E	普	橙	100%	重さ 5.05g
84		土鉢	長 (4.3)	幅 1.2	厚 1.2	A B C	普	橙	90%	重さ 4.31g
85		土鉢	長 5.4	幅 1.3	厚 1.2	A B C	普	橙	100%	重さ 6.54g
86		土鉢	長 4.7	幅 1.1	厚 1.2	A B C	普	にぶい橙	100%	重さ 5.17g
87		土鉢	長 5.3	幅 1.1	厚 1.1	A B C E	普	灰褐	100%	重さ 4.46g
88		土鉢	長 5.2	幅 1.2	厚 1.3	A C	普	にぶい橙	95%	重さ 7.72g
89		土鉢	長 5.7	幅 1.3	厚 1.2	A B C	普	橙	100%	重さ 7.06g
90		土鉢	長 4.9	幅 1.1	厚 1.3	A B C	普	橙	100%	重さ 5.88g
91		土鉢	長 4.6	幅 1.2	厚 1.2	A B C	普	橙	100%	重さ 4.77g
92		土鉢	長 4.6	幅 1.2	厚 1.2	A B C	普	橙	100%	重さ 4.31g
93		土鉢	長 4.8	幅 1.2	厚 1.2	A B C	普	橙	100%	重さ 4.90g
94		土鉢	長 (5.5)	幅 1.3	厚 1.4	A C	普	黑褐	90%	重さ 8.96g
95		土鉢	長 (5.5)	幅 1.2	厚 1.3	A C I	普	灰褐	90%	重さ 7.64g

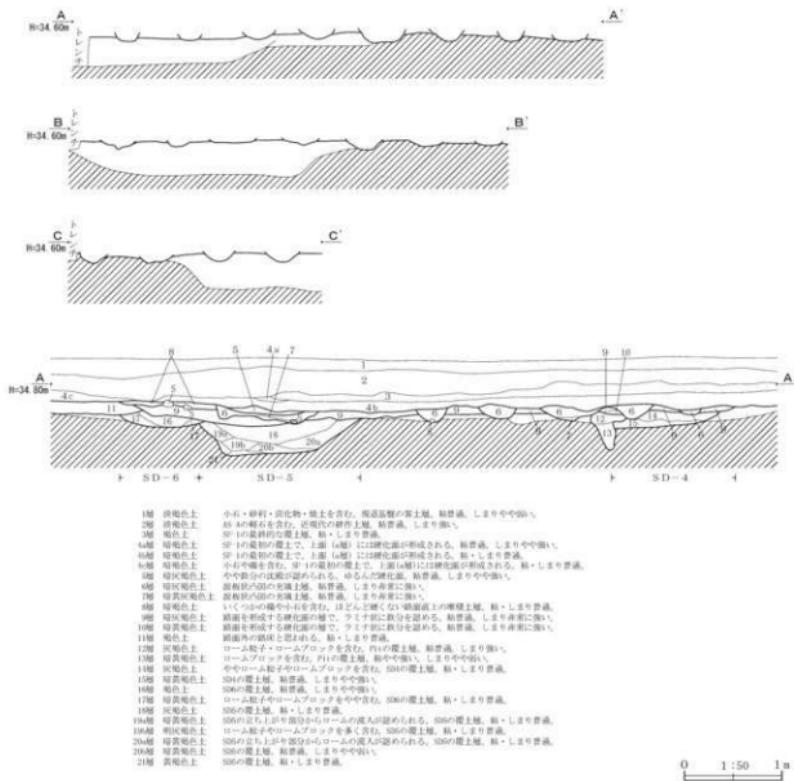
第8表 第5号溝出土遺物観察表 (2)



第26図 第1号道路跡



第27図 第1号道路跡出土遺物



第28図 第1号道路跡出土遺物層断面

0 1:50 1m

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	焼 成	色 調	残存	備 考
1	S	甕				A C F H	普	灰		
2		瓦				A C F H	良	青灰		

第9表 第1号道路跡出土遺物観察表

#### 第6号土坑（第29図）

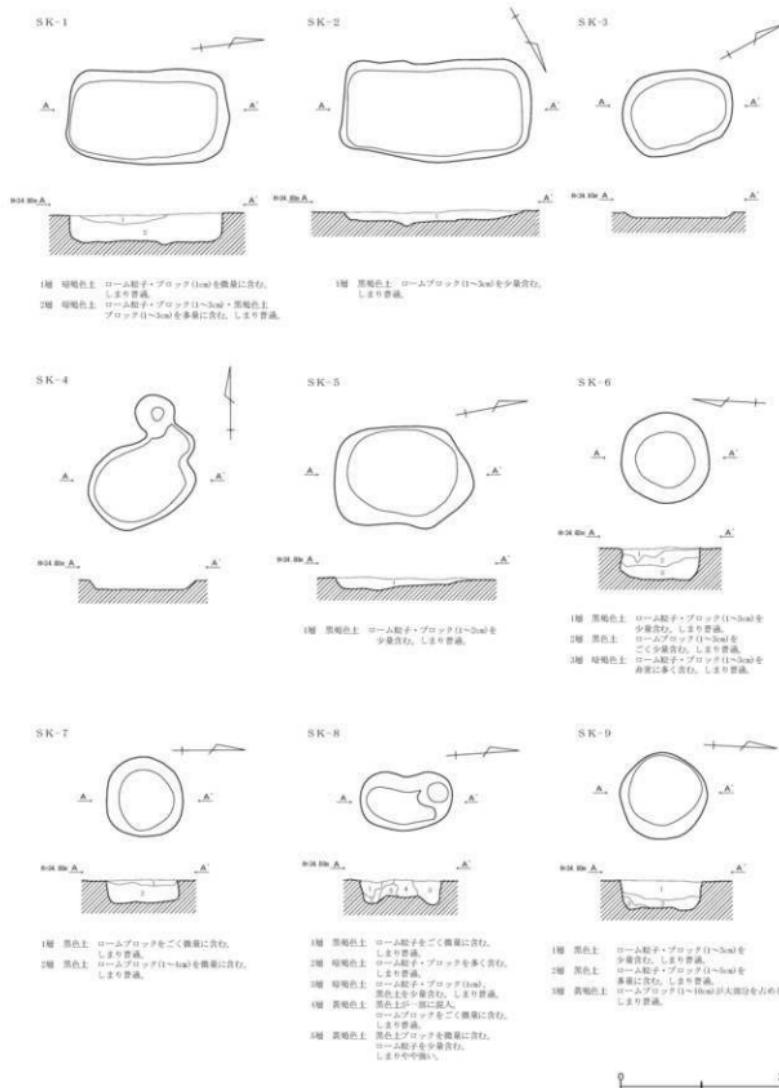
調査区北西部に位置する。平面形態は円形で、直径1.1mを測る。底面はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。確認面からの深さは40cmを測る。

図示できる遺物は出土しなかった。

#### 第7号土坑（第29図）

調査区北部に位置する。平面形態は円形で、直径1.0mを測る。底面はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。確認面からの深さは30cmを測る。

図示できる遺物は出土しなかった。



第29図 土坑実測図

#### 第8号土坑（第29図）

調査区東部に位置する。平面形態は不整楕円形で、長径1.1m、短径0.7mを測る。底面は両端がピット上になり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。確認面からの深さは20cm、両端は30cmを測る。主軸方位はN-6°-Eである。

図示できる遺物は出土しなかった。

#### 第9号土坑（第29図）

調査区西部に位置する。平面形態は円形で、直径1.05mを測る。底面はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。確認面からの深さは35cmを測る。

図示できる遺物は出土しなかった。

### 3 第6次調査北下郷1区

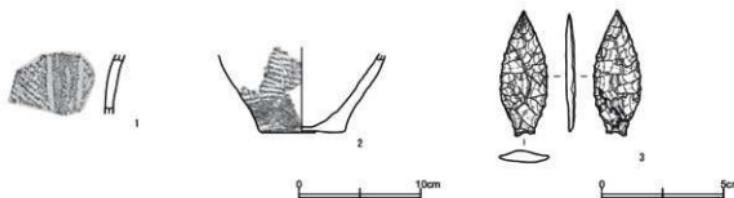
#### a 繩文時代の遺物

第30図1は加曾利E式の胸部破片である。縦位の沈線が施され、L Rの縄文帯と無文帯が交互に配される。2は底部資料である。推定底径6.8cmを測る。L Rの縄文が施される。3は有茎尖頭器である。草創期に位置付けられよう。チャート製で、長さ3.4cm、幅1.3cm、厚さ0.3cmを測る。基部付近に、黒色の付着物が認められる。

#### b 溝

##### 第1号溝（第31図）

調査区東部に位置し、第14・15号土坑と切り合う。



第30図 繩文時代の遺物

主軸方位はほぼ正方位である。幅25cm、確認面からの深さ10cmを測る。

図示できる遺物は出土しなかった。

#### 第2号溝（第31図）

調査区東部に位置し、第4号竪穴建物跡、第17号土坑と切り合う。主軸方位はN-11°-Eである。幅35cmで、南側が細くなる。確認面からの深さ10cmを測る。

図示できる遺物は出土しなかった。

#### 第3号溝（第31図）

調査区中央部に位置し、第4・6号土坑と切り合う。主軸方位はN-11°-Eである。幅40cm、確認面からの深さ10cmを測る。

図示できる遺物は出土しなかった。

#### 第4号溝（第31図）

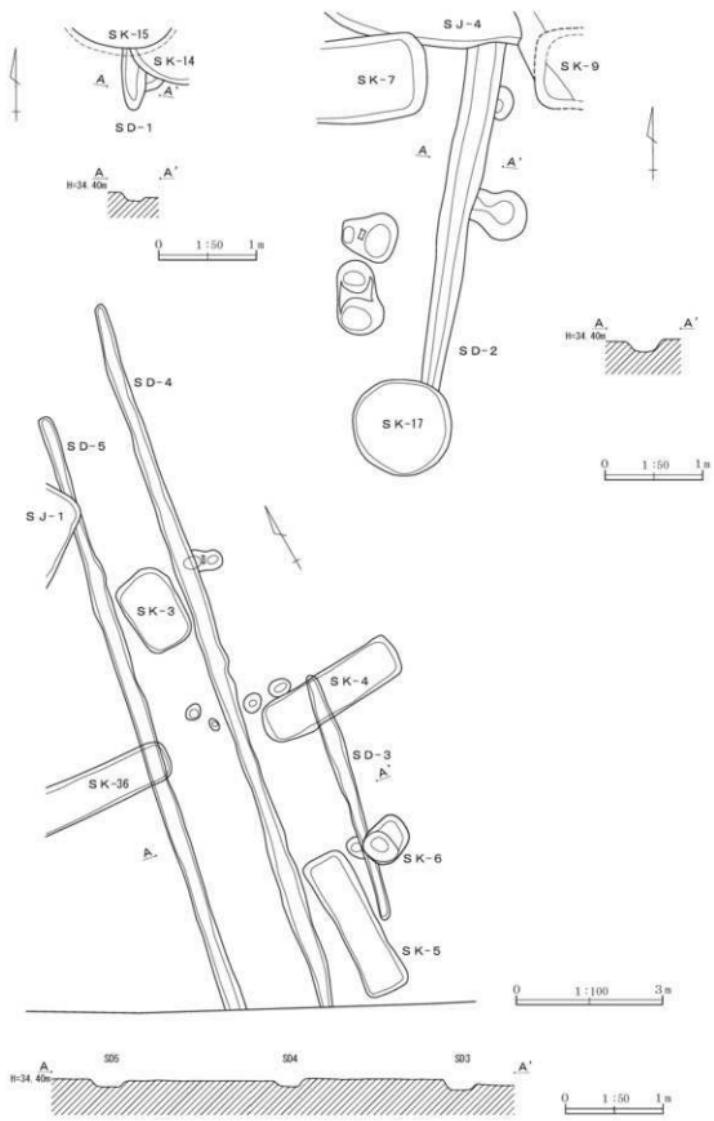
調査区中央部に位置する。主軸方位はN-11°-Eである。幅40cm、確認面からの深さ10cmを測る。

図示できる遺物は出土しなかった。

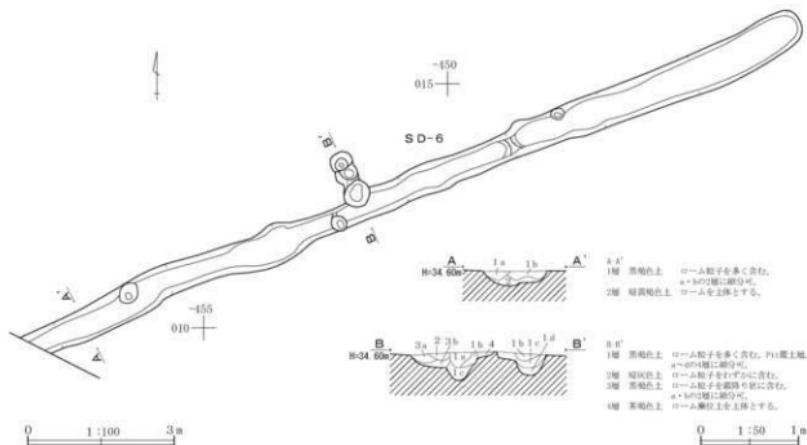
#### 第5号溝（第31図）

調査区中央部に位置し、第1号竪穴建物跡、第36号土坑と切り合う。主軸方位はN-11°-Eである。幅40cm、確認面からの深さ10cmを測る。

図示できる遺物は出土しなかった。



第31図 第1～5号溝



第32図 第6号溝

#### 第6号溝（第32図）

調査区西部に位置する。第1号道路東側溝で、主軸方位はN-67°-Eである。幅60~80cm、確認面からの深さは15cmを測る。

図示できる遺物は出土しなかった。

#### 第7号溝（第33図）

調査区西部に位置する。第1号道路西側溝で、主軸方位はN-67°-Eである。幅60~80cm、確認面からの深さは10~20cmを測る。

図示できる遺物は出土しなかった。

#### 第8号溝（第34・35・38図、第10表）

調査区西部に位置し、第9・11・12号溝と切り合う。伊丹1区第5号溝、第14次調査2号溝と同一のものである。第1号道路跡の北西を区画する西辺区画溝と南辺区画溝である。主軸方位はN-67°-E及びN-23°-Wである。幅1.2~2.0mを測る。断面形態は逆台形で、確認面からの深さ40~50cmである。

第9号溝は後の段階に掘削されており、掘削後は、第8号溝南辺と第9号溝とで区画を成したものと思われる。

図示できた遺物は、第38図1~10である。1~4は土師器壺、5~7は須恵器壺、8~9は須恵器甕、10は土錘である。

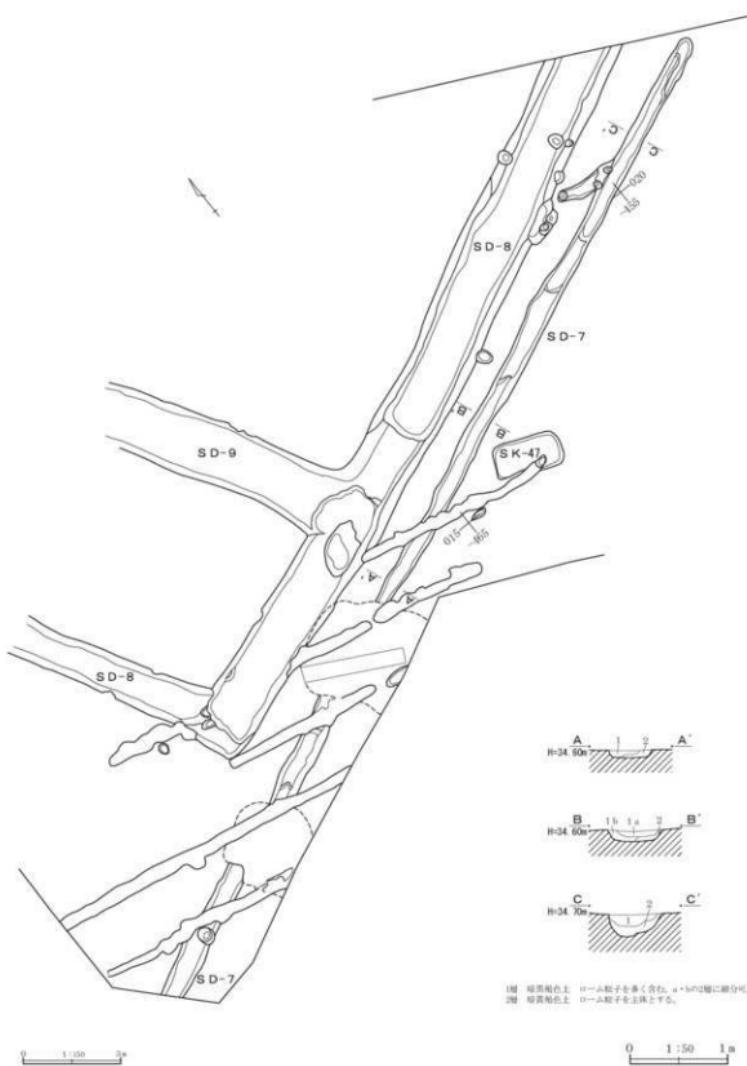
遺構の時期は、8世紀中葉と推定される。

#### 第9号溝（第36・39図、第11表）

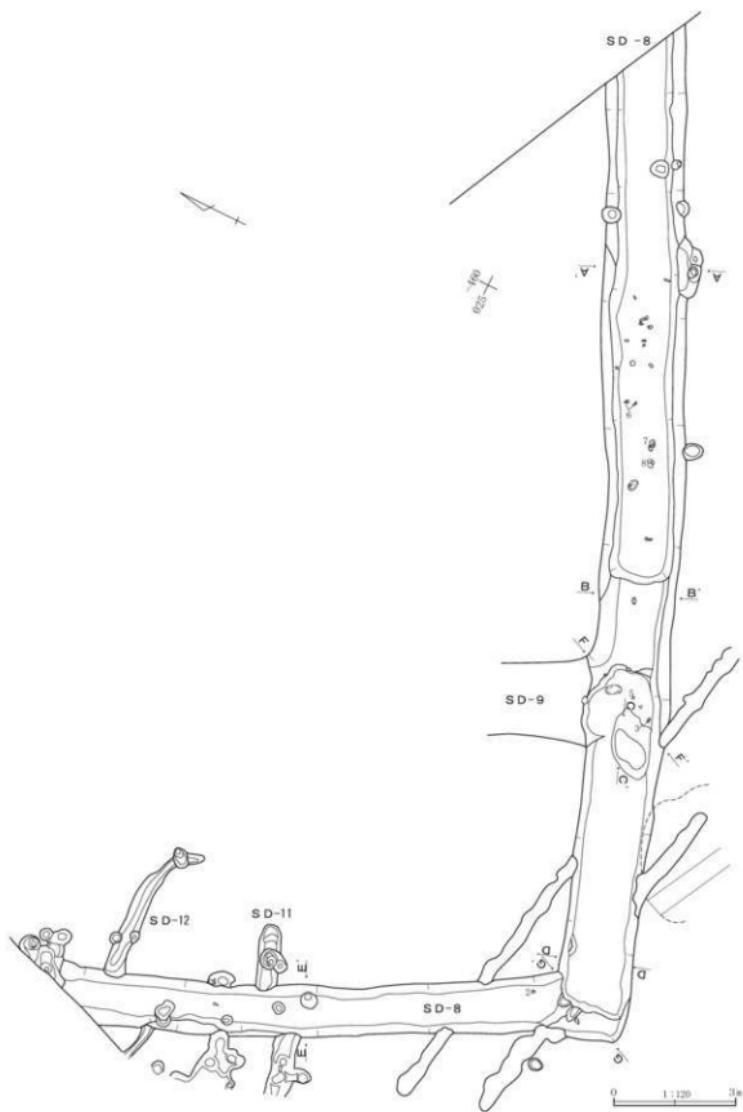
調査区西部に位置し、第8号溝と切り合う。第14次調査1号溝と同一のものである。主軸方位はN-30°-Wである。幅1.5~2.0mを測る。断面形態は逆台形で、確認面からの深さは30~60cmである。

掘削は第8号溝より後で、第9号溝掘削後は、第8号溝南辺と第9号溝とで区画を成したものと思われる。図示できた遺物は、第39図1・2である。1は土師器甕、2は須恵器甕である。

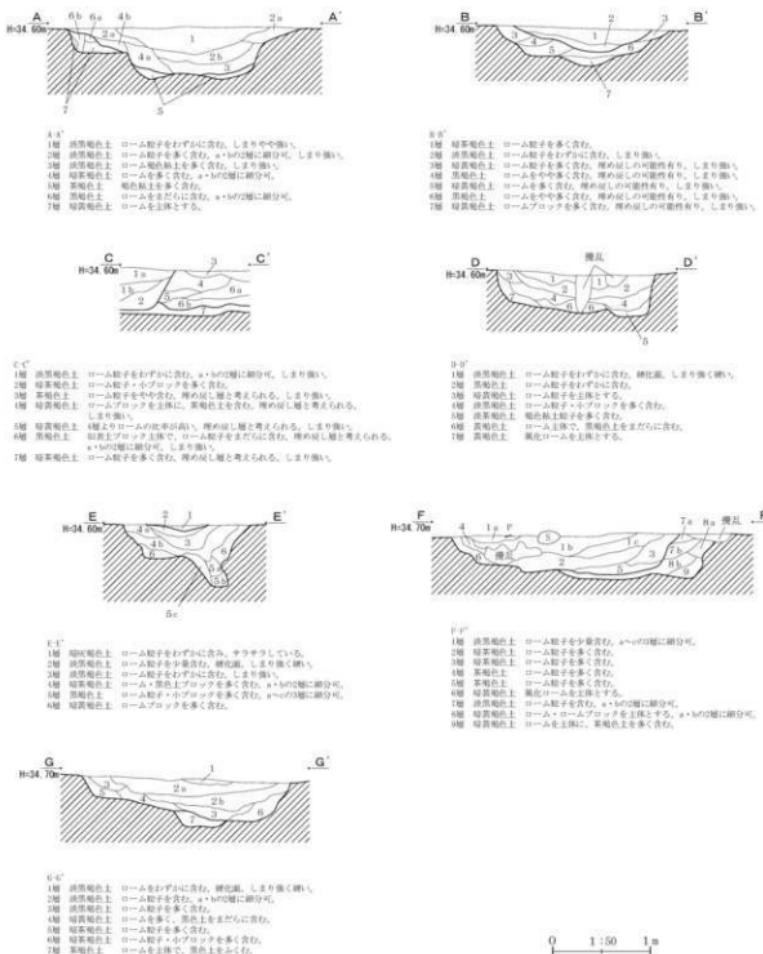
遺構の時期は、8世紀代と推定される。



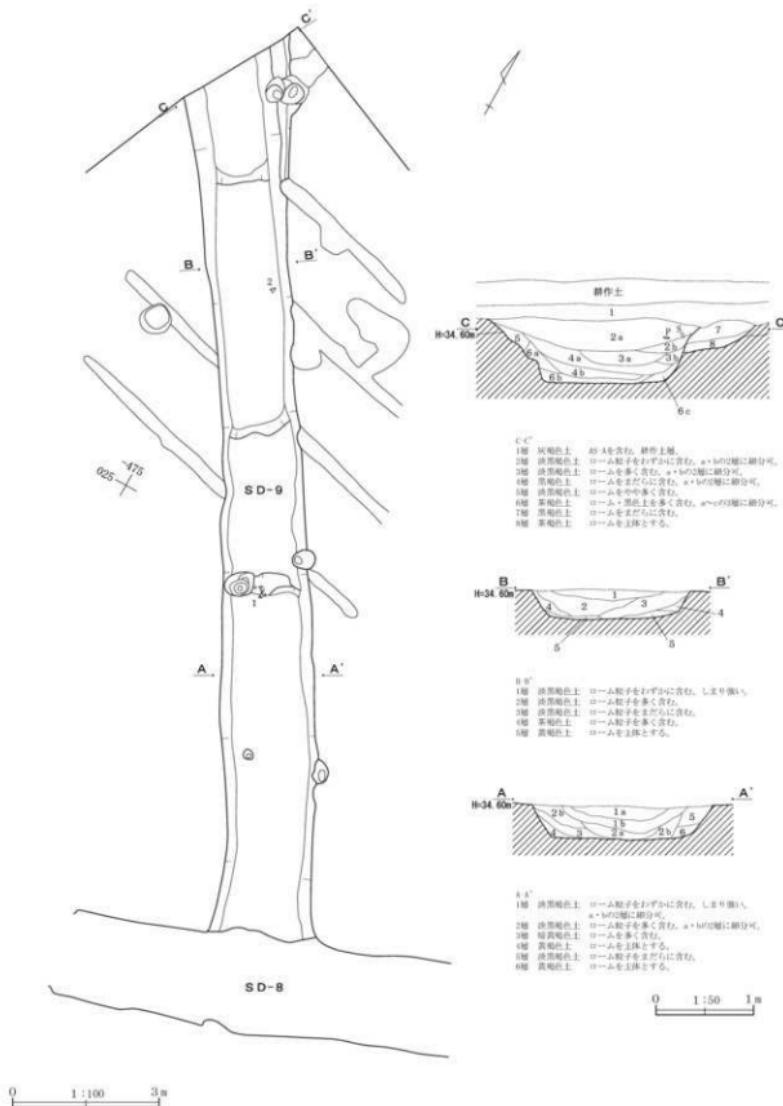
第33図 第7号溝



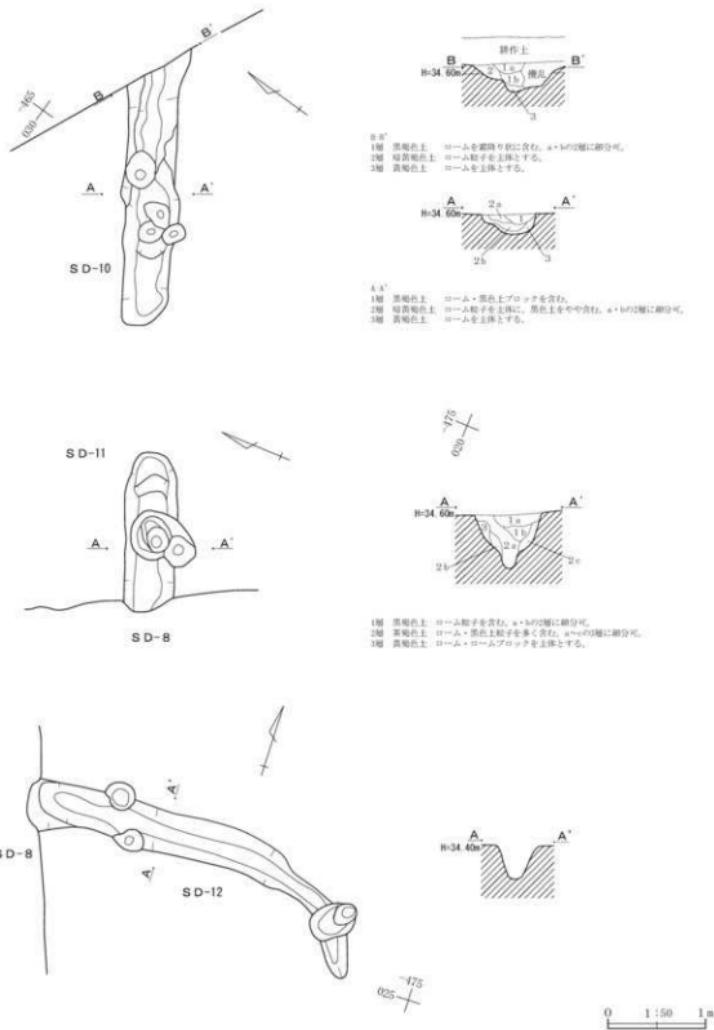
第34図 第8号溝



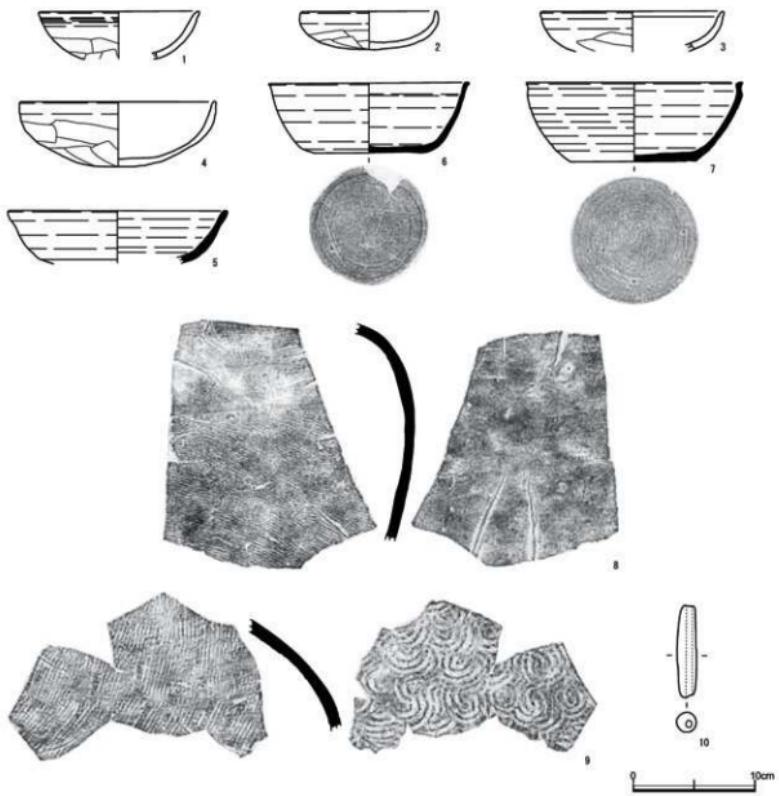
第35図 第8号溝土層断面



第36図 第9号溝



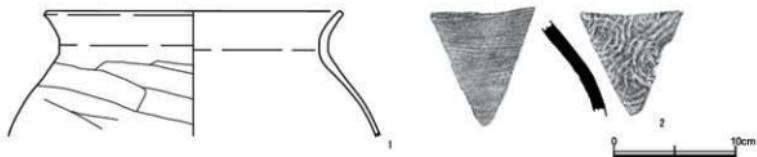
第37図 第10～12号溝



第38図 第8号溝出土遺物

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	H	坏	(13.1)			A B C E	普	橙	20%	
2	H	坏	(11.1)	3.1		A C D E I	普	橙	35%	
3	H	坏	(15.0)			A C E	良	橙	15%	
4	H	坏	(16.0)	5.3		A C E	普	橙	25%	
5	S	坏	(17.8)			A C H	普	灰	20%	
6	S	坏	16.3	5.8	8.8	A C G H	良	灰	60%	
7	S	坏	11.8	6.5	10.2	A C G H	良	灰	90%	
8	S	甕				A C F H	良	青灰	10%	外面に自然釉
9	S	蓋				A C F H	良	青灰	5%	
10		土鍤	長 7.6	幅 1.7	厚 1.7	A B C I	普	にぶい橙	100%	重さ 20.09g

第10表 第8号溝出土遺物観察表



第39図 第9号溝出土遺物

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	H	甕	24.0			A B C E H	良	橙	15%	
2	S	甕				A C F H	普	灰		

第11表 第9号溝出土遺物観察表



第40図 第12号溝出土遺物

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	S	脚付盤			13.0	A C F H	良	青灰	20%	

第12表 第12号溝出土遺物観察表

#### 第10号溝（第37図）

調査区西部に位置する。主軸方位はN-56°-Eである。幅50cm、確認面からの深さ20~30cmを測る。

図示できる遺物は出土しなかった。

確認面からの深さ30cmを測る。

図示できた遺物は、第40図1の須恵器脚付盤の脚部である。

#### 第11号溝（第37図）

調査区西部に位置し、第8号溝と切り合う。主軸方位はN-67°-Eである。幅50cm、確認面からの深さ25cmを測る。

図示できる遺物は出土しなかった。

## C 道路跡

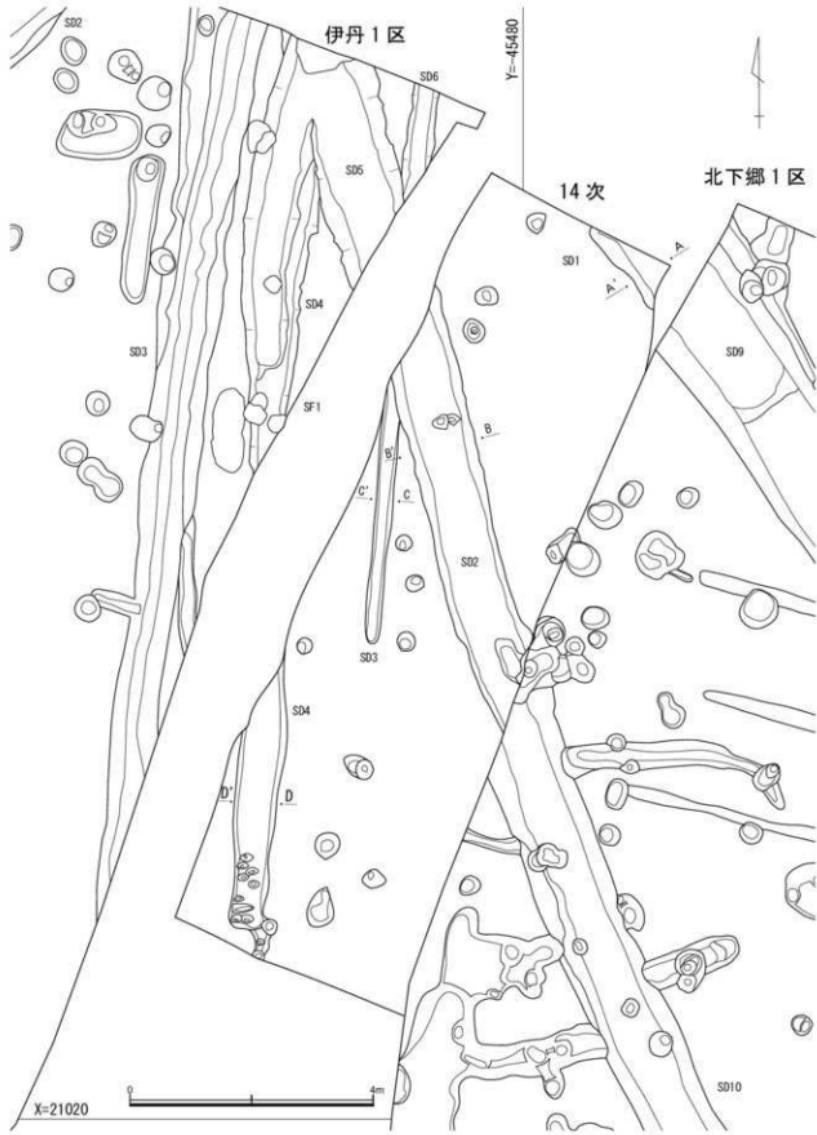
#### 第1号道路跡（第5・7・8図）

調査区西部に位置する。第6・7号溝を側溝とする道路跡である。路面幅8m、側溝の中心間距離8.5mを測る。波板状痕跡は確認されなかった。主軸方位はN-67°-Eであり、北東の轔羅遺跡第6・15・21次調査区で確認された道路跡に、直線的に繋がる。なお、その北東延長線上には、西別府祭祀遺跡がある。

図示できる遺物は出土しなかった。

#### 第12号溝（第37・40図、第12表）

調査区西部に位置し、第8号溝と切り合う。主軸方位はN-88°-Eで、東側は南に曲がる。幅40cm、



第41図 第14次調査区

## 4 第14次調査区

### 第1号溝 (第41・42図)

調査区北東部に位置し、第6次調査北下郷1区9号溝と同一のものである。主軸方位はN-30°-Wである。確認面からの深さ35cmを測る。

図示できる遺物は出土しなかった。

### 第2号溝 (第41・42図、第43図1・2、第13表)

調査区中央部に位置し、第3号溝に切られる。第6次調査伊丹1区5号溝及び北下郷1区8号溝と同一のものである。主軸方位はN-16°-Wで、幅1.1mを測る。断面形態は逆台形で、確認面からの深さ25cmである。

図示できた遺物は、第43図1・2である。1は台付甕、2は黒曜石の剥片である。

### 第3号溝 (第41・42図)

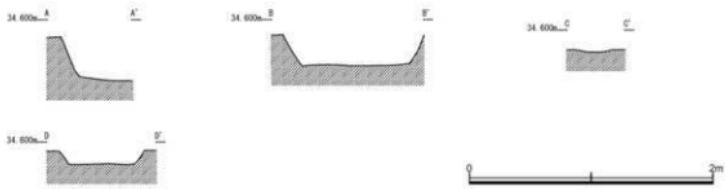
調査区中央部に位置し、第2号溝を切る。第6次調査伊丹1区6号溝と同一のものである。主軸方位はN-5°-Eである。幅30cm、確認面からの深さ5cmを測る。

図示できる遺物は出土しなかった。

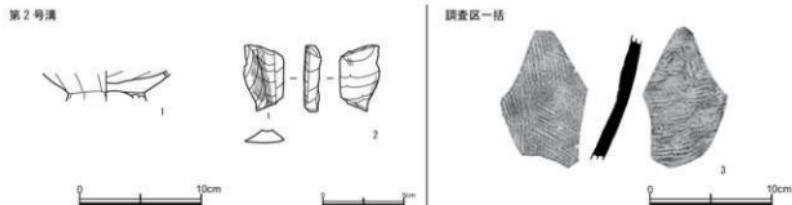
### 第4号溝 (第41・42図)

調査区南西部に位置する。第6次調査伊丹1区4号溝と同一のものである。主軸方位はN-4°-Eである。幅70cm、確認面からの深さ10cmを測る。

図示できる遺物は出土しなかった。



第42図 第1～4号溝断面



第43図 第14次調査区出土遺物

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	SD 2	H	台付甕 剥片	長 4.0	幅 2.4	厚 0.9	A C E I 石材: 黒曜石	普	にぶい橙		重さ 9.04g
2											
3	調査区一括	S	甕				A C	良	灰		

第13表 第14次調査区出土遺物

## IV 調査のまとめ

前章まで述べてきた通り、今回は、第6次調査のうち、伊丹1区の全てと北下郷1区の道路跡、溝について、そして第14次調査について報告した。

今回報告分で特筆すべきは、2条の道路跡と区画溝である（第44図）。2条の道路跡は主軸方位が大きく異なる。北下郷1区のものは古代の道路跡で、幡羅遺跡で確認されたものと同一のものである。路面幅は約8mを測り、幅60～80cmの側溝を両側にもつ。路面部分からは、硬化面や波板状痕跡は確認されていない。それより南西には、その痕跡と思われる現道が約200m続く。

幡羅遺跡では、第6・15・21次調査で道路跡が確認されている。当初は、北西の側溝として、幅2.1～3.2mで覆土中層から上層にかけて硬化面をもつ第14号溝を考えていた。しかし、第6次調査15号溝及び第21次調査55号溝がそれに平行しており、北下郷1区における第8号溝と道路側溝との関係に近い。そのため、第15・55号溝を道路側溝と考えた方が妥当と思われる。その場合、道路は北東へ進むに従い徐々に狭くなり、第21次調査区では、路面幅は約6mとなる。道路幅が変化する例は、埼玉県吉見町の西吉見古代道路跡等がある（吉見町教育委員会2002）。幡羅・下郷遺跡の道路は、台地の縁辺に向かってやや細くなっているものとみられる。ただし北東部では、道路の痕跡が不明瞭である。

幡羅遺跡第14号溝は、北西側の区画を兼ねた側溝と捉えていたが、純粋な区画溝であり、後に道路として

も活用されたと思われる。北下郷1区第8号溝と同一のもので、道路の北西部を大きく区画したものであろう。幡羅遺跡第21次調査C区の溝は、正倉院（南）拡張後の南辺区画溝で、その南東辺は、道路に平行する区画溝が正倉院の区画を兼ねている。北下郷1区第8号溝または第9号溝による西辺の区画溝は、幡羅遺跡第20次調査C区で西に曲がっていくことや、その南西に集落が広がっていることから、官衙域と集落域とを大きく区画するものと考えている。正倉院と集落域との間には広い空間があるが、その内部には8世紀代の遺構はわずかしか確認されておらず、空閑地に近い状況も想定される。

一方、伊丹1区の道路跡は、中世のものと思われるが、北側延長上に当たる幡羅遺跡調査区からは道路の痕跡が確認されておらず、詳細は不明である。

また、伊丹1区第1・2号溝による区画については、7世紀末頃のものと考えられ、主軸方位は道路跡や先述した区画溝とは異なる。幡羅遺跡第22次調査区からは、第2号溝の延長部分は確認されておらず、区画の規模や内部の状況は明らかとはなっていない。

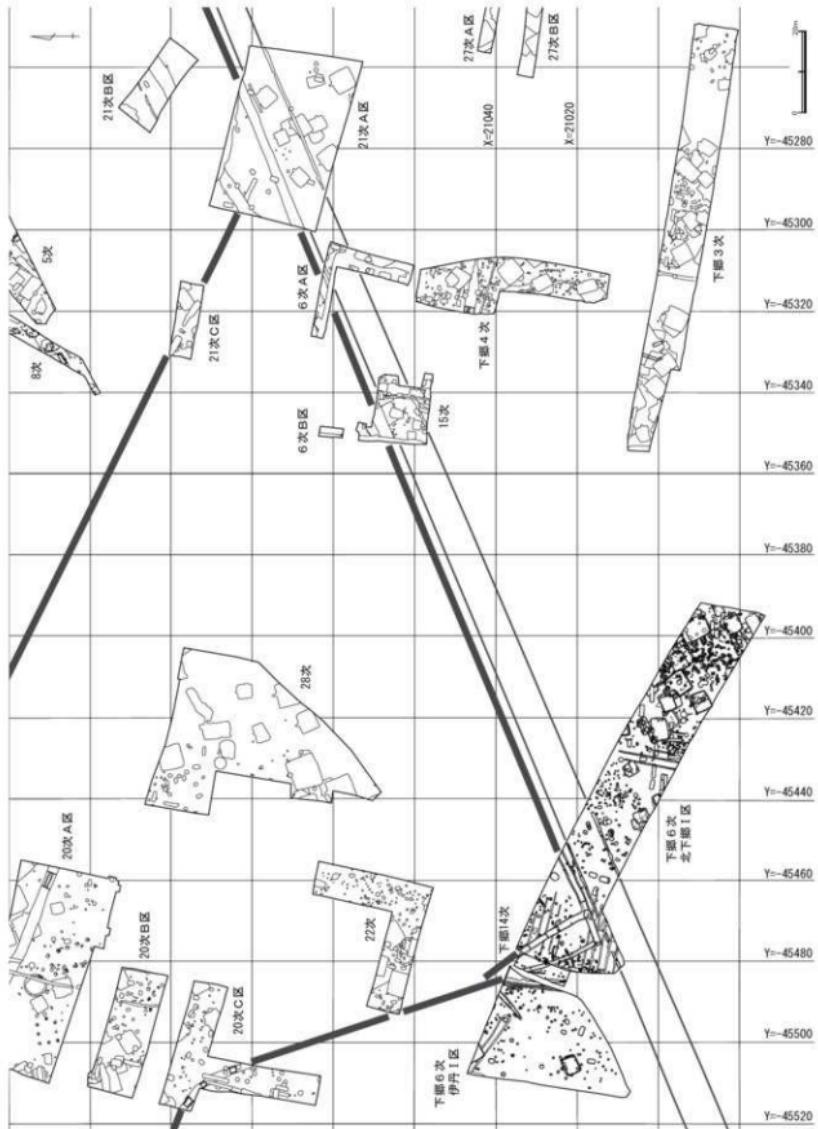
将来、この近辺にて発掘調査を実施する際には、道路跡や官衙関連施設等に特に注意する必要がある。

最後に改めて、この発掘調査に深いご理解とご協力を頂いた方々をはじめ、下郷遺跡の発掘調査、整理作業に携わり、文化財を記録保存して後世に残すことにご尽力頂いた皆様に敬意を表したい。

### 参考文献

知久裕昭 2008 『幡羅遺跡Ⅲ』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第99集

吉見町教育委員会 2002 『西吉見古代道路跡－西吉見条里Ⅱ遺跡発掘調査概報－』



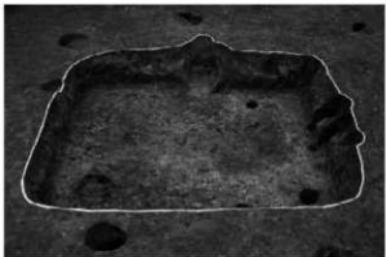
第44図 古代の道路跡と区画溝

# 写 真 図 版

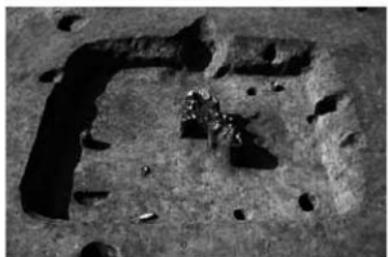




伊丹 1区



伊丹 1区第1号竪穴建物跡



伊丹 1区第1号竪穴建物跡遺物出土状況（1）



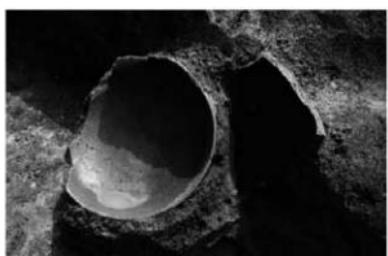
伊丹 1区第1号竪穴建物跡遺物出土状況（2）



伊丹 1区第1号竪穴建物跡土層断面



伊丹 1区第2号竪穴建物跡



伊丹 1区第2号竪穴建物跡遺物出土状況（1）



伊丹 1区第2号竪穴建物跡遺物出土状況（2）

## 図版 2



伊丹 1 区第 1・2 号溝



伊丹 1 区第 2 号溝



伊丹 1 区第 1 号溝土層断面



伊丹 1 区第 3 号溝



伊丹 1 区第 1 号道路跡



伊丹 1 区第 1 号道路跡波板状痕跡 (1)



伊丹 1 区第 1 号道路跡波板状痕跡 (2)

図版 3



伊丹 1 区第 4 ~ 6 号溝



伊丹 1 区第 4 · 5 号溝遺物出土状況



伊丹 1 区第 5 号溝遺物出土状況



北下郷 1 区第 8 · 9 号溝 (1)



北下郷 1 区第 8 · 9 号溝 (2)



北下郷 1 区第 8 号溝遺物出土状況



北下郷 1 区第 1 号道路跡



第14次調査区

## 図版 4



伊丹 S J 1-1



伊丹 S J 1-4



伊丹 S J 1-5



伊丹 S J 1 出土遺物



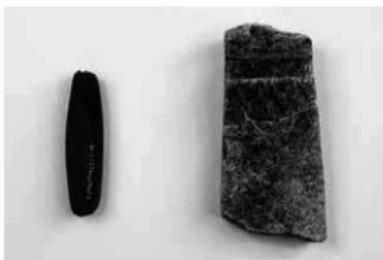
伊丹 S J 2-5



伊丹 S J 2 出土遺物



伊丹 S J 2-11



伊丹 S J 2-10・12

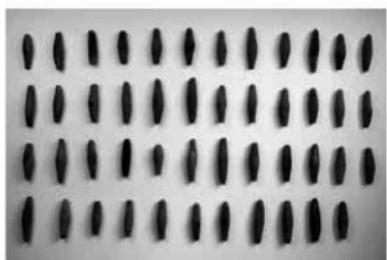
図版 5



伊丹 S D 1 出土遺物



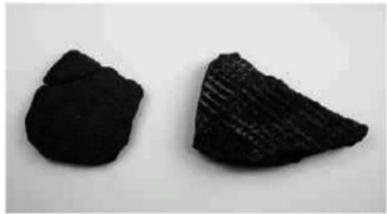
伊丹 S D 3・4 出土遺物



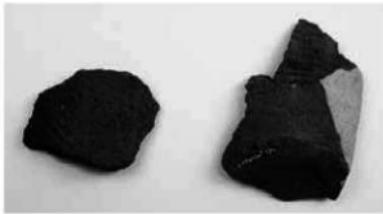
伊丹 S D 5 出土遺物 (1)



伊丹 S D 5 出土遺物 (2)



伊丹 S F 1 出土遺物



縄文土器



有茎尖頭器



北下郷 S D 8-6

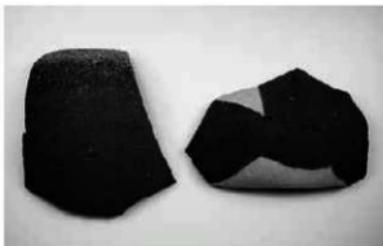


北下郷 S D 8-7

図版 6



北下郷 S D 8 出土遺物



北下郷 S D 8 - 8・9



北下郷 S D 9 - 1



北下郷 S D 9 - 2



北下郷 S D 12 - 1



第14次調査区出土遺物

## 報告書抄録

ふりがな	しもごういせきさん								
書名	下郷遺跡 III								
副書名	北通り線建設工事に伴う発掘調査								
卷次	Ⅲ								
シリーズ名	埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書								
シリーズ番号	第118集								
編著者名	知久裕昭								
編集機関	深谷市教育委員会								
所在地	〒366-0823 埼玉県深谷市本住町17-3 TEL 048-572-9581								
発行年月日	2010年3月31日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ一ド	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因		
下郷遺跡 (6次)	深谷市東方 字伊丹2807、 字北下郷2736	11218	029	36 19 15	139 32 45 20050811 20060228	2,000 m <sup>2</sup>		道路建設	
下郷遺跡 (14次)	深谷市東方 字伊丹2807-2	11218	029	36 19 16	139 32 43 20091215 20091218	50 m <sup>2</sup>			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
下郷遺跡	集落跡	古墳時代 奈良時代 平安時代 中世	堅穴建物跡 溝 道路跡 土坑	2棟 18条 2条 9基	縄文土器 石器 土師器 須恵器 鉄製品				

---

---

埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第118集

下郷遺跡Ⅲ

印 刷 平成22年3月25日  
発 行 平成22年3月31日

発行 埼玉県深谷市教育委員会

---



